

令和5年度

事業概要

(令和4年度実績)

地方独立行政法人

栃木県立リハビリテーションセンター

2023



「ごあいさつ」

地方独立行政法人
栃木県立リハビリテーションセンター



理事長 星野 雄一

令和5(2023)年6月

令和5年度版の事業概要（令和4年度実績を掲載）をお届け致します。

令和4年4月からの1年間を振り返りますと、同年2月末に突如始まったロシアによるウクライナ侵略が、ウクライナの予想外に激しい抵抗を受け長期化したことに、真っ先に思いが至ります。戦争そのものは決してあってはならない非人道的行為ですが、今回の現場から伝えられて来るロシアの残虐さは信じられぬ程で、とくにブチャでの民間人への拷問や虐殺の報には、ヒトという生き物の底知れぬ恐ろしさ冷酷さに思わず身震いしました。

COVID-19に関しては、令和4年7月からの第7波、同じく11月からの第8波が、いずれもピーク時は全国で毎日20万人以上の感染者発生という大波でした。一方、重症化リスクはワクチン接種の普及等により低減し、本年5月に感染症2類から5類に指定が引き下げられました。感染対策の緒規制が漸次緩和されCOVID-19があたかも終焉を迎えた感がありますが、ウイルスが消滅したわけではなく、併存し微妙な均衡を保っている、いわばウィズコロナの状態といえます。3年に及ぶ経験から、社会全体としての感染症対策の常態化が必須と再認識され、それを実践できる高い民度が期待されています。

当センターでは、平成30年4月の独法化と同時にスタートした第1期中期計画5年が、令和4年度に最終年度を迎えました。5年のうち後半の3年はCOVID-19に翻弄されましたが、経営的には概ね順調な収支を達成出来ました。利用頂いた県民の皆様をはじめ、関係機関の皆様、そして一丸となって頑張った職員の皆様に、心から感謝申し上げます。ただし、COVID-19に伴う受診・入院制限、県の対策事業への協力に伴う業務縮小などもあり、企図していた規模よりは幾分抑えられた事業展開でした。

令和5年度は第2期中期計画5年の開始年であり、COVID-19対策に引き続き留意しながら、感染対策規制の緩和に伴い徐々にのびのびと事業を展開して行きたいと思っております。第2期中期計画では、回復期リハを中心とする質の高い専門的リハを提供する事が当センターの事業の中心である事に変わりはありませんが、ニーズが高まっている以下の点にも注力していきたいと思っております。発達障害児の学童期でのフォローアップ強化、退院後の通院リハビリテーションの充実、自立支援事業の整備、の3点です。

5年前の第1期中期計画の初頭に当センターの職員に紹介した和歌を、第2期のスタートに際し再び記したいと思っております。7世紀に難波から筑紫に向けて瀬戸内海を航行する斉明天皇一行に、額田王が四国の松山の熟田津（にぎたつ）湊で贈ったものです。

「熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今は漕ぎいでな」

CONTENTS

第1 栃木県立リハビリテーションセンター

の概要

1 設置の目的	4
2 沿革	5
3 各施設の内容	6
4 センターの組織	8
(1) 組織図	8
(2) 職員配置状況	9
(3) 役員名簿	9
5 経営状況	
(1) 栃木県立リハビリテーション センター中期計画の概要	10
(2) 目標とする指標の実績	11
6 主要器械備品	12
7 活動実施状況	12
(1) とちり八病院研修会	12
① とちり八病院研修会	12
② 出前講座	12
(2) ボランティア受入れ 及び職員による活動状況	14
① 受入れ状況	14
② 職員による活動状況	14
(3) 実習生等受入れ状況	14
(4) その他活動状況	15
(5) 各種委員会・会議	17

第2 医療センター

1 診療概要	18
(1) 概要	18
(2) 病床数と診療科目	18
2 各診療科（常設科）	19
(1) リハビリテーション科	19
(2) 小児科	20
(3) 整形外科	22
(4) 神経内科	23
3 地域医療連携室	24
4 薬剤科	26
5 検査科	28
6 放射線科	30
7 栄養科	32
8 リハビリテーション部	34
9 看護部	37

第3 こども発達支援センター

1 概要	39
2 スタッフ紹介	39
3 活動実績	39
4 人材育成への取り組み	43
5 実習生受入れ状況	43
6 今後の方向性	43

第4 こども療育センター

1 概要	44
2 スタッフ紹介	44
3 活動実績	44
4 人材育成への取り組み	47
5 実習生受入れ状況	47
6 今後の方向性	47

第5 障害者自立訓練センター（駒生園）

1 概要	48
2 スタッフ紹介	48
3 活動実績	48
4 人材育成への取り組み	52
5 実習生受入れ状況	52
6 今後の方向性	52

第6 医療安全管理

1 概要	53
2 各委員会等活動内容	53
3 過去5年間における 医療事故等について	56

第7 研究論文、研究発表等

1 論文及び著書	57
2 学会発表	57
3 講演	58
4 センター内職員研修	58
5 センター内研究発表	62
6 委員等就任状況	63
7 その他	63



第1 栃木県立リハビリテーションセンターの概要

1 設置の目的

当センターは、主に回復期のリハビリテーション医療や障害児医療を提供する「医療センター」、児童福祉施設である「こども発達支援センター」及び「こども療育センター」、指定障害者支援施設である「障害者自立訓練センター（駒生園）」で構成される複合施設として、心身に障害がある県民の自立と社会参加を促進することを目的として設置されています。

平成30（2018）年4月、権限の拡充とそれに伴う責任の自覚の下、自律的・弾力的で透明な経営を通じて、県民サービスの向上と経営の改善を図るため、県の組織から地方独立行政法人へ移行しました。

なお、障害者総合相談所については、平成30（2018）年4月以降も引き続き県直営の施設として運営されています。

○法人の名称

地方独立行政法人栃木県立リハビリテーションセンター
（平成30(2018)年4月1日設立）

○法人の設立目的

心身に障害のある県民の自立と社会参加を促進する。

○法人の基本理念

私たちは、診療、訓練、社会参加に至る一貫したリハビリテーションを提供するとともに、地域のリハビリテーション実施機関等への支援に努め、心身に障害のある県民の生活の質の向上と地域生活への移行を促進します。

○法人の基本方針

- 1 私たちは、医療と福祉が一体となった複合施設の特長を活かし、乳幼児から高齢者に至るまでのあらゆる年齢層に対して、多職種連携による専門的なリハビリテーションを提供します。
- 2 私たちは、障害者総合相談所とともに、医療、社会、教育、職業といった各分野の関係機関と連携を図りながら、総合的なリハビリテーションを提供します。
- 3 職員一人ひとりの不断の自己研鑽の下、リハビリテーションに関する調査研究を行いながら、法人が有する知見や技術を地域に還元します。
- 4 全ての職員が経営への参画意識を持って、効率的で健全な病院・施設の運営に努めます。

○法人が設置する病院等の名称

栃木県立リハビリテーションセンター
こども発達支援センター
こども療育センター
障害者自立支援センター（駒生園）

昭和27(1952)年11月	■ 身体障害者福祉法第11条に基づき、宇都宮市若草町に身体障害者更生相談所設置①
昭和35(1960)年11月	■ 児童福祉法に基づく肢体不自由児施設として、宇都宮市若草町に若草学園設置 入所定員100名②
昭和36(1961)年5月	■ 身体障害者福祉法に基づく肢体不自由者更生施設として、宇都宮市若草町に身体障害者更生指導所を設置
昭和48(1973)年4月	■ ①・②・③を統合し、身体障害医療福祉センターが発足（肢体不自由児施設 入所100名、母子入所15名、通所40名、肢体不自由者更生施設 入所50名、通所7名、重度身体障害者更生援護施設 入所60名）
昭和63(1988)年3月	■ 「総合リハビリテーションシステム構想」策定
平成13(2001)年9月1日	■ 身体障害医療福祉センターを引き継ぐとともに、リハビリテーション病院、心身障害児総合通園センターの機能を付加し、さらに知的障害者更生相談所を統合（吸収）して、宇都宮市駒生町にとちぎリハビリテーションセンターを開設（病院80床、肢体不自由児入所施設35名・親子入所5名、心身障害児通園施設 肢体不自由児40名・知的障害児30名、肢体不自由者更生施設 入所30名・通所10名、重度身体障害者更生援護施設 入所50名）
平成14(2002)年9月1日	■ 回復期リハビリテーション病棟の開設
平成18(2006)年4月1日	■ 肢体不自由者更生施設（駒生園）の管理運営を県直営化
平成21(2009)年3月1日	■ こども療育センターで人工呼吸器装着児の短期入所を開始
平成21(2009)年9月1日	■ 駒生園を障害者自立支援法に基づく、指定障害者支援施設に移行 自立訓練（機能訓練）、施設入所支援、短期入所を開始
平成22(2010)年9月1日	■ 高次脳機能障害支援拠点機関設置
平成23(2011)年10月1日	■ 駒生園で自立訓練（生活訓練）を開始
平成24(2012)年4月1日	■ 児童福祉法の一部改正により、肢体不自由児施設が医療型障害児入所施設に、また、肢体不自由児通園施設が医療型児童発達支援センターに、知的障害児通園施設が福祉型児童発達支援センターに移行
平成30(2018)年4月1日	■ 地方独立行政法人栃木県立リハビリテーションセンターを設立 栃木県立リハビリテーションセンターは従前の病院・施設部門を担い、相談支援部門は新たに設置された県の出先機関「栃木県障害者総合相談所」が同所で引き続き運営 6階病棟（40床）の運用開始
平成31(2019)年3月1日	■ 栃木県難病医療協力病院に指定
令和2(2020)年1月1日	■ 5・6階病棟が回復期リハビリテーション病棟入院料施設基準1を取得
令和3(2021)年4月1日	■ こども発達支援センターで保育所等訪問支援事業を開始

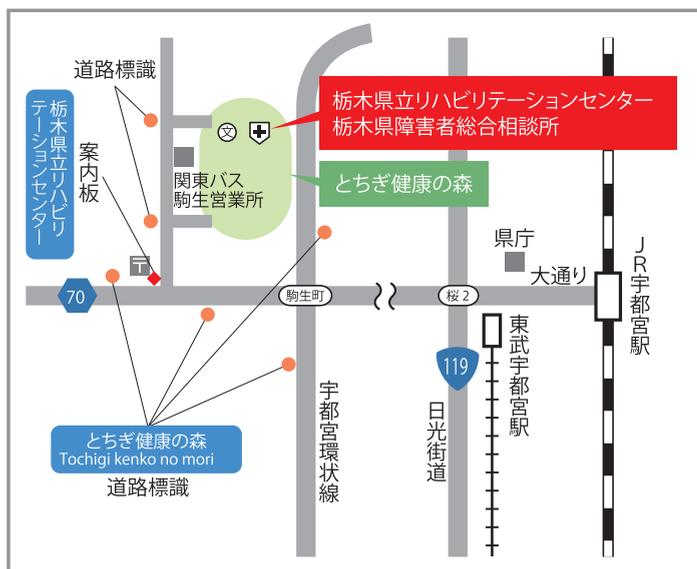
3 各施設の内容

- (1) 所在地 栃木県宇都宮市駒生町3337-1
- (2) 敷地面積 210,000㎡（栃木県との共有）
- (3) 建物の種類 鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造地下1階、地上7階
- (4) 建築面積 8,663.59㎡
- (5) 延床面積 22,208.56㎡
- (6) 施設構成・運営形態等

施設の名称	種別及び定員	面積（㎡）	整備状況
医療センター	病床 120 床	13,664.49	H30 80 床から 40 床増床
こども療育センター	医療型障害児入所施設（病床33床） 入所 30 人 短期入所 4 人 （うち2人は人工呼吸器装着児等） 日中一時支援 4 人	2,166.91	H13 身障センターから移 転整備
こども発達支援センター	医療型児童発達支援センター 通園 30 人 福祉型児童発達支援センター 通園 30 人	1,973.11	H13 身障センターから移 転整備 H13 整備
障害者自立訓練センター （駒生園）	指定障害者支援施設 自立訓練 40 人 機能訓練 30 人 生活訓練 10 人 施設入所支援 30 人 短期入所 4 人	4,152.81	H13 身障センターから移 転整備

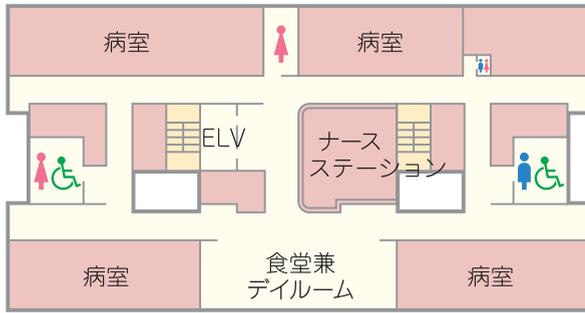
※身障センター：栃木県身体障害者医療福祉センター（昭和 48 年 3 月～平成 13 年 8 月）

(7) アクセス

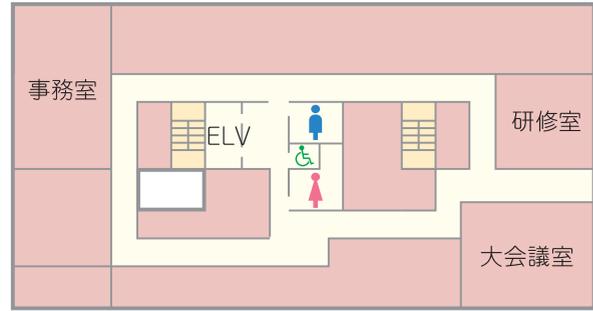


- 車利用
 - 東北自動車道 宇都宮 IC から 約 15 分
 - 東北自動車道 鹿沼 IC から 約 15 分
- 電車・バス
 - JR 宇都宮駅から約 25 分
関東バス（6 番・7 番乗り場）
駒生営業所行き（健康の森経由）
「リハビリテーションセンター」下車
駒生営業所行き
「終点 駒生営業所」下車
 - 東武宇都宮駅から約 20 分
関東バス（東武駅前 乗車）
駒生営業所行き（健康の森経由）
「リハビリテーションセンター」下車
駒生営業所行き
「終点 駒生営業所」下車
- タクシー
 - JR 宇都宮駅から約 20 分
3,000 円程度

(8) フロアマップ



4~6階
[病棟]



3階



2階

- : 医療センター
- : こども発達支援センター、こども療育センター
- : 障害者自立訓練センター

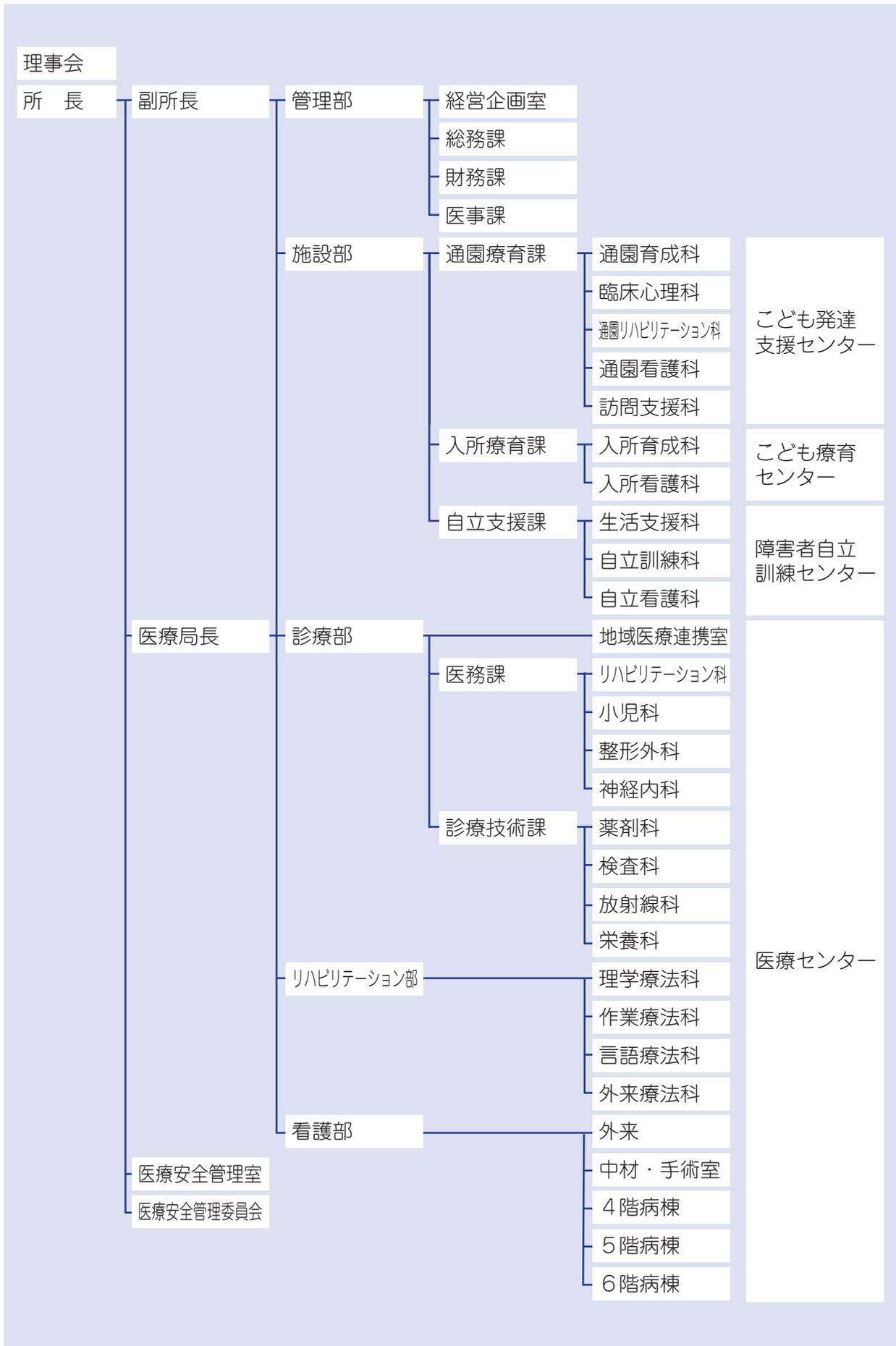
1階



4 センターの組織

令和5(2023)年4月1日現在

(1) 組織図



(2) 職員配置状況

令和5(2023)年4月1日現在

職 種	管理部	施設部	診療部	リハビリテー ション部	看護部	職種計
医師	2		11			13 (0)
看護師		22			68 (5)	90 (5)
理学療法士		4		37		41 (0)
作業療法士		3		31		34 (0)
言語聴覚士		2		12		14 (0)
薬剤師			4			4 (0)
臨床検査技師			3			3 (0)
診療放射線技師			3			3 (0)
管理栄養士			3			3 (0)
保健師			1			1 (0)
社会福祉士		1	3			4 (0)
保育士		14 (4)				14 (4)
公認心理師		5				5 (0)
福祉(介護)		7				7 (0)
事務	22 (3)	4 (6)				26 (9)
看護助手					(6)	0 (6)
歯科衛生士			(1)			0 (1)
夜勤専門員		(3)				0 (3)
部門計	24 (3)	63 (13)	28 (1)	79 (0)	68 (11)	262 (28)

※常勤職員と同様の期限付職員を含む
カッコ内は、業務嘱託員数(外数)

(3) 地方独立行政法人栃木県立リハビリテーションセンター役員名簿

令和5(2023)年4月1日現在

役職名	区 分	氏 名	備 考
理事長	常勤	星野 雄一	栃木県立リハビリテーションセンター 所長兼務
副理事長	常勤	渡辺 直人	栃木県立リハビリテーションセンター 副所長兼務
理事	常勤	山形 崇倫	栃木県立リハビリテーションセンター 医療局長兼務
理事	非常勤	長田 太助	自治医科大学 医学部内科学講座(腎臓内科学部門) 教授
理事	非常勤	畦上 恭彦	国際医療福祉大学 保健医療学部言語聴覚学科 教授
監事	非常勤	白土 陽子	法律事務所コンフォルト 弁護士
監事	非常勤	佐藤 千鶴子	佐藤千鶴子公認会計士事務所 所長 公認会計士

5 経営状況

(1) 栃木県立リハビリテーションセンター中期計画の概要

【中期計画について】（地方独立行政法人法第 26 条、第 83 条）

- ・ 知事が定めた中期目標を達成するために、地方独立行政法人が知事の認可を受けて作成する計画。
- ・ 知事は、あらかじめ、議会の議決を経て中期計画を認可する。

《主な内容》

※下線部：独法後の新たな取組

第1 中期計画の期間 平成 30(2018)年4月1日～令和5(2023)年3月31日（5年間）

第2 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

- 質の高い医療の提供
 - ▶ 医療と福祉が一体となった複合施設の特長を活かし、乳幼児から高齢者までのあらゆる年齢層に対して、多職種連携による専門的なリハビリテーション医療を提供
 - ▶ 肢体不自由児や発達障害児等に対し、施設部門をはじめ、関係機関と連携を図りながら、相談から診療、療育、教育に至る一貫した総合的なリハビリテーションを提供
 - ▶ 医療機能の充実（県内の回復期の医療需要増に適切に対応するため、回復期リハビリテーション病棟を 40 床増床）
- 障害児・障害者の福祉の充実
 - ▶ 療育支援の充実（多職種で構成するカンファレンスの実施による訓練効果の向上、在宅障害児等の家族に対する支援（レスパイト）の強化等）
 - ▶ 自立訓練の充実（病院部門との連携強化による訓練効果の向上、利用者の就労支援の強化等）
- 人材の確保と育成
 - ▶ 職員の資質向上（研修委員会による一元的な研修管理体制の構築等）
 - ▶ 医療従事者の安定的な確保（病院見学会の実施やインターンシップの活用等）
 - ▶ 人事管理制度の構築（人材育成やモチベーション向上に資する人事管理制度の構築等）
- 地域連携の推進
 - ▶ 急性期病院や地域の医療機関等との連携の推進（地域医療連携室の設置による連絡調整の強化等）
- 地域医療・福祉への貢献
 - ▶ 医療・福祉関係者の資質向上に係る支援（実習生等の積極的な受入れ、出前講座の実施等）
 - ▶ 一次予防に係る地域の取組への支援（ロコモティブシンドロームの普及啓発等）

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

- 経営企画室の設置
- 障害児・障害者に係る政策的な医療や福祉等に対する適切なコスト管理等を行うための 診療科目別、部門別原価計算の実施 等

第4 予算、収支計画及び資金計画 外

- 中期目標期間を累計した経常収支比率 100%以上 等

(2) 目標とする指標の実績

指標名	令和3年度		令和4年度	
	目標値	実績値	目標値	実績値
1 リハビリテーション実施単位数（単位）	302,000	245,531	303,000	254,239
2 重症患者の受入れ割合（％）	30.0	51.4	30.0	54.0
3 発達障害外来受診者数（人）	6,000	5,223	7,400	5,872
4 整形外科手術実施人数（人）	30	7	45	4
5 プレイス（装具）クリニック実施件数（件）	1,300	988	1,300	890
6 休日におけるリハ実施単位数（単位）	85,000	78,233	85,000	78,696
7 療法士及び看護師の学会発表件数（件）	6	7	6	7
8 医療安全に関する研修会の実施回数（回）	6	11	6	9
9 感染管理認定看護師数（人）	—	—	1	0
10 集中ラウンド実施回数（回）	3	3	3	3
11 医薬品安全管理研修会の実施回数（回）	4	5	5	5
12 患者満足度割合（％）	90.0	81.0	90.0	75.2
13 退院前在宅訪問指導（家屋調査）件数（件）	55	32	55	28
14 児童発達支援事業所等を対象とした研修回数（回）	21	25	22	47
15 こども療育センター短期入所契約者数（人）	40	25	44	23
16 家族会の開催回数（回）	2	2	2	2
17 自立訓練終了後一般就労等移行利用者数（人）	8	2	9	2
18 医師数（人）	12	10	12	11
19 療法士数（人）	84	91	87	86
20 職員満足度割合（％）	90.0	67.4	90.0	62.6
21 逆紹介率（％）	54.0	58.8	55.0	58.5
22 出前講座の実施回数（回）	20	20	20	30
23 療法士の実習生受入れ人数（人）	430	365	440	650
24 看護師の実習生受入れ人数（人）	600	277	450	421
25 病床利用率（％）	90.8	72.4	91.4	74.6
26 新入院患者数（人）	480	476	500	512
27 ジェネリック医薬品使用割合（％）	74.0	92.1	75.0	92.1
28 材料費対医業収益比率（％）	8.1	7.9	8.0	9.1
29 経常収支比率（％）	100%以上	101.5	100%以上	99.7
30 医業収支比率（％）	75%以上	66.2	75%以上	67.5

6 主要器械備品

令和5(2023)年3月31日現在

機器名称	構造又は用途
外科用 X 線 TV 装置、X 線撮影装置、CR 装置、多目的デジタル X 線テレビ装置、全身 X 線 CT 診断装置(64 列型)、磁気共鳴映像撮影装置(MRI)、骨密度測定装置、内視鏡装置、体圧分布測定装置、全自動 PH/ 血液ガス・電解質分析装置、生化学分析装置、脳波計、超音波診断装置、ドライブシュミレーター、ストレングスエルゴ、歩行訓練装置、免架式リフト型歩行器、経皮的筋電気刺激装置 (B-SES)、ADL 訓練装置、ADL キッチン、全自動尿中成分分析装置、自動血球分析装置、心電図記録装置、誘発電位・筋電図検査装置、麻酔器、手術台、高圧蒸気滅菌装置、車椅子浴槽、POCT 用遺伝子検査機器 (PCR 検査)	医療機器
電子カルテシステム、人事給与システム、調剤支援システム、画像ファイリングシステム	事務機器及び通信機器

7 活動実施状況

(1) とちり八病院研修会

① とちり八病院研修会

とちり八病院研修会は、当センターが取り組む医療や福祉の事業を通じて、スタッフが習得した知識や情報を、介護サービス事業所や 障害者支援施設、医療機関など関係機関の皆様へ還元し、障害のある方の生活の質の向上や社会参加に役立てていただくために開催しています。

期日・会場	内容(講師)	参加者
R4.11.21 (月) Zoom 形式	テーマ：「脳卒中と転倒」 1 脳卒中と転倒 ～転倒につながる症状～ (医師) 2 脳卒中片麻痺と転倒 ～右片麻痺と左片麻痺の違い～ (理学療法士) 3 転倒と認知機能 ～主に認知症に関連して～ (作業療法士) 4 病棟における転倒予防への取り組み ～安全用具の紹介～ (看護師)	介護事業所 医療機関 行政機関等職員 39 施設 128 名



研修会の様子

② 出前講座

出前講座では、関係団体等の要望に応じて、当センターのスタッフが団体等に出向き希望のテーマに沿った内容で講義をします。

期日・会場	内容(講師)	参加者
R4.4.19 (火) 栃木県シルバー大学校北校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士) リモート	栃木県シルバー大学校 北校 16名
R4.4.22 (金) 栃木県シルバー大学校南校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士) リモート	栃木県シルバー大学校 南校 24名
R4.4.27 (水) 栃木県シルバー大学校中央校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士) リモート	栃木県シルバー大学校中央校水曜コース 22名

期日・会場	内 容 (講師)	参 加 者
R4.4.28 (木) 栃木県シルバー大学校中央校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士) リモート	栃木県シルバー大学校中央校木曜コース 25名
R4.6.8 (水) 栃木県シルバー大学校中央校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士) リモート	栃木県シルバー大学校中央校水曜コース 22名
R4.6.9 (木) 栃木県シルバー大学校中央校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士) リモート	栃木県シルバー大学校中央校木曜コース 23名
R4.6.10 (金) 栃木県シルバー大学校南校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士) リモート	栃木県シルバー大学校南校 24名
R4.7.26 (火) とちぎ健康の森健康づくりセンター	テーマ：「人工骨頭置換術・人工股関節置換術」 ～術後の注意点と筋力トレーニング方法～ (理学療法士) リモート	栃木県保健福祉部健康増進課 13名
R4.7.28 (木) 栃木県わかかさ特別支援学校	テーマ：「言葉の発達とその促し方」 (言語聴覚士)	栃木県立わかかさ特別支援学校 43名
R4.8.22 (月) 栃木県立岡本特別支援学校	テーマ：「安全な歩行」 (理学療法士) リモート	栃木県立岡本特別支援学校 50名
R4.9.4 (日) とちぎ青少年センター	テーマ：「栃木県立リハビリテーション センターにおける摂食嚥下ケア」 (認定看護師)	栃木県歯科衛生士会 宇都宮支部 21名
R4.10.17 (月) ニューみくら	テーマ：「ロコモティブシンドローム」 「ロコモ度テストとロコトレ」 (星野理事長、理学療法士)	栃木県職員退職者会 18名
R4.11.8 (火) 栃木県シルバー大学校中央校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士)	栃木県シルバー大学校中央校火曜コース 35名
R4.11.9 (水) 栃木県シルバー大学校北校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士) リモート	栃木県シルバー大学校北校 17名
R4.11.16 (水) 特別養護老人ホームおりづる	テーマ：「移乗介助」 (理学療法士) リモート	特別養護老人ホームおりづる 10名
R4.11.24 (木) 栃木県シルバー大学校南校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士) リモート	栃木県シルバー大学校南校 23名
R4.12.2 (金) 栃木県シルバー大学校中央校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士) リモート	栃木県シルバー大学校中央校金曜コース 17名
R4.12.7 (水) 栃木障害者職業センター	テーマ：「高次脳機能障害の障害特性と 基本の対応」 (作業療法士)	栃木障害者職業センター 17名
R4.12.11 (日) 栃木県健康の森 講堂	テーマ：「ロコモ最新情報」 (星野理事長・理学療法士)	栃木県内セラピスト 50名
R4.12.14 (水) 特別養護老人ホーム宮の里	テーマ：「脳卒中の再発予防 患者・家族への指導」 (認定看護師) リモート	特別養護老人ホーム宮の里 8名
R4.12.19 (月) 特別養護老人ホーム那須友愛苑	テーマ：「ずっと楽しく食べるために ～食形態・姿勢の話を中心に～」 (言語聴覚士) リモート	特別養護老人ホーム那須友愛苑 14名
R5.1.10 (火) 栃木県庁本庁舎	テーマ：「ロコモ度テスト・ロコトレ」 (理学療法士)	ロコモアドバイザー 42名
R5.1.18 (水) 栃木県シルバー大学校北校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士) リモート	栃木県シルバー大学校北校 17名
R5.1.19 (木) 栃木県シルバー大学校南校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士) リモート	栃木県シルバー大学校南校 23名
R5.1.31 (火) 特別養護老人ホーム義明苑いなほ	テーマ：「発達障害児の理解と支援」 (臨床心理士)	特別養護老人ホーム義明苑いなほ 20名
R5.2.7 (火) 栃木県シルバー大学校中央校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士) リモート	栃木県シルバー大学校中央校火曜コース 34名
R5.2.17 (金) 栃木県シルバー大学校中央校	テーマ：「食生活の工夫」 (管理栄養士) リモート	栃木県シルバー大学校中央校金曜コース 21名
R5.2.17 (金) 栃木県障害者総合相談所	テーマ：「ことばの発達のつまずきと発達を促 す働きかけ方について」 (言語聴覚士)	栃木県障害者総合相談所 34名

期日・会場	内 容（講師）	参 加 者
R5.2.22（水） 栃木県シルバー大学校北校	テーマ：「食生活の工夫」 （管理栄養士） リモート	栃木県シルバー大学校北校 17名
R5.3.9（木） 栃木県シルバー大学校南校	テーマ：「食生活の工夫」 （管理栄養士） リモート	栃木県シルバー大学校南校 18名

(2) ボランティア受入れ及び職員による活動状況

① 受入れ状況

(単位：人)

受入部門	具体的活動内容	実施日	延受入人数	摘要
障害者自立訓練センター 園芸研究会	園芸を通じて障害者の自立に向けた支援を行う。	毎週水曜日	163	とちぎいやしの園芸研究会



「とちぎいやしの園芸研究会」によるグリーンカーテンの設置

② 職員による活動状況

(単位：人)

内 容	具体的活動内容	実施期間	延活動人数
交通安全県民総ぐるみ運動	春と秋の年2回、児童の通学時間帯及び通勤時間帯に合わせ、交通安全の啓発活動を行った。	① R4.4.8～4.15 ② R4.9.21～9.30 (土日祝日を除く)	① 30 ② 29



職員による通学時間帯の見守り活動

(3) 実習生等受入れ状況

(単位：日)

所 属	職 種	内 容	延べ日数					備 考
			H30	R1	R2	R3	R4	
看護部	看護師	小児看護学実習	201	5	1	2	89	
		成人看護学実習	0	27	0	12	87	
		老年看護学実習	0	32	10	17	154	
		統合実習	0	8	32	1	42	
		基礎看護学	45	8	1	1	17	
		見学実習	0	0	0	0	32	
リハビリテーション部	理学療法士	総合実習	153	200	63	198	248	
		評価実習	0	19	0	0	0	
		見学実習	0	12	0	0	0	
	作業療法士	総合実習	63	157	109	49	110	
		実務研修	61	0	0	0	0	
		評価実習	63	58	26	44	142	
		見学実習	16	12	0	20	21	
	言語聴覚士	総合実習	0	0	19	54	55	
		評価実習	0	0	0	0	41	
		見学実習	4	0	0	0	0	
		実務研修	0	0	0	0	33	

所 属	職 種	内 容	延べ日数					備 考
			H30	R1	R2	R3	R4	
通園療育課	保育士等	実務実習	45	20	0	3	4	
	歯科衛生士	歯科実習	9	9	30	30	28	
入所療育課	保育士等	保育実習	55	66	22	0	0	
	看護師	看護実習	0	0	0	0	0	
自立支援課	介護福祉士等	介護実習	20	20	0	0	0	
		福祉体験学習	30	31	0	4	0	
計			765	684	313	435	1071	

(4) その他活動状況

① とちりハいいね！カード制度

とちりハいいね！カード制度とは、良い行動（患者・利用者への対応、仕事への取組姿勢等）をしている職員に対し、それに気づいた職員から「とちりハいいね！カード」を渡し、職員間の相互承認の文化を醸成する取り組みです。この制度の導入により職員の職務へのモチベーションが高まり、サービスの質が向上することが期待されます。各部でカードを最も多く受け取った職員を表彰するとともに、令和4年度には組織の活性化への貢献の観点から最も多くカードを渡した職員も表彰しました。

<令和4年度いいね！カード受領数上位者>

所 属	氏 名	受 領 数
管理部	吉田 瑞久	15 枚
診療部	菊池 史江	10 枚
リハビリテーション部	長谷 将明	10 枚
施設部	佐藤 文子	7 枚
看護部	伊東 綾子	5 枚
委託業者 東京コンピューターサービス	外山 孝	1 枚
ジェービーエム事業本部	佐藤 秀子	1 枚

<令和4年度いいね！カード配付数上位者>

所 属	氏 名	配 付 数
施設部	重田 恭一	56 枚

② とちりハ提案制度

医療や福祉の質・安全の向上、患者サービスの向上、経営改善につながるアイデアや企画について、職員から提案を受け業務に反映することにより、中期計画の着実な実施の一助とすることを目的とした取り組みです。毎年職員に募集を行い、特に優秀な提案をした職員を表彰しています。

<令和4年度最優秀提案>

区 分	提 案 内 容	提 案 者
サービス向上部門	受付アプリ（受付待ち時間が分かる）の導入	管理部 平山 笑望子
働き方改革部門	クールビズの通年化	管理部 坂井 瑛
自由提案部門	外灯（感知式センサーライト）の設置	診療部 宮下 直子
		診療部 生田目 恵里
自由提案部門	業務用エレベーター対面壁への階数表示	看護部 石川 久美子

③ 新型コロナウイルス感染症に対する対応状況

対応時期	内 容
R4. 4.20	・ 第27回新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催し、県警戒度レベル別対応表（レベル2）に沿った対応を継続することを確認
4.30	・ 4月に新たに職員2名（累計15名）の感染を確認
5.25	・ 第28回新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催し、県警戒度レベル別対応表（レベル2）に沿った対応を継続することを確認するとともに感染関係議決フローチャートの運用を決定
5.31	・ 5月に新たに職員2名（累計17名）の感染を確認
6.22	・ 第29回新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催し、県警戒度レベル別対応表（レベル2）に沿った対応を継続することを確認するとともに県内他院の状況から当センターでも面会制限緩和に向けた検討を開始することについて決定
7.20	・ 第30回新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催し、県警戒度レベルの引き上げに伴い、警戒度レベル別対応表（レベル2）に沿った対応をすることを確認するとともに感染急拡大を受け県内の複数の病院で面会が再禁止となっていること及びセンター関係の感染状況を報告
7.31	・ 7月に新たに職員3名（累計20名）の感染を確認
8.17	・ 第31回新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催し、「BA.5対策強化宣言」発令中であり、県警戒度レベル別対応表（レベル2）に沿った対応を継続することを確認するとともにセンター関係の感染状況等を報告
8.17	・ 県央臨時医療施設（岡本台病院）に看護師4名の派遣を開始
8.23	・ 職員に対する4回目ワクチン接種を開始
8.31	・ 8月に新たに職員12名（累計32名）の感染を確認
9. 2	・ 後方支援病院として患者の受入れを開始
9.21	・ 第32回新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催し、県の「BA.5対策強化宣言」が9/30での終了となるが、県警戒度レベルは2が維持されるためそのレベル対応表（レベル2）に沿った対応を継続することを確認するとともにセンター関係の感染状況等を報告
9.22	・ 濃厚接触職員の自宅療養期間を5日に短縮
9.30	・ 9月に新たに職員5名（累計37名）の感染を確認
10.19	・ 第33回新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催し、県警戒度レベル別対応表（レベル2）に沿った対応を継続することの確認と県内他院の面会制限状況を報告するとともに今後は同会議の開催を随時とすることを決定
10.31	・ 10月に新たに職員4名（累計41名）の感染を確認
11. 1	・ 対面面会開始及びリハビリテーション室使用方法変更開始
11. 4	・ 感染職員の自宅療養期間を7日に短縮
11.30	・ 11月に新たに職員7名（累計48名）の感染を確認
12. 5	・ 感染拡大のため対面面会を中止し、リモート面会に切り替え
12.31	・ 12/26～12/31に駒生園で入所者2名、職員5名の感染が確認され、宇都宮市保健所がクラスターと認定
12.31	・ 12月に新たに職員17名（累計65名）の感染を確認
R5. 1. 4	・ 第34回新型コロナウイルス感染症対策本部会議（書面）を開催し、駒生園で発生したクラスターについて報告
1. 6	・ 駒生園のクラスター収束（1/9通所事業、短期入所事業再開）
1.31	・ 1月に新たに職員16名（累計81名）の感染を確認
2.28	・ 2月に新たに職員4名（累計85名）の感染を確認
3.27	・ センター1階での対面面会再開
3.31	・ 3月に新たに職員2名（累計87名）の感染を確認

(5) 各種委員会・会議

名 称	目 的	実施内容（回数）
管理運営会議	センターの管理運営における重要事項を審議・決定する。	構成員：9名 開 催：月1回
所内連絡会議	管理運営会議での決定事項の伝達及びセンターの管理運営における必要事項の検討を行う。	構成員：44名 開 催：月1回
医療従事者処遇改善委員会	センターに勤務する医療従事者等の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画等の審議を行う。	構成員：10名 開 催：年1回
業者指名選考委員会	調達する物品及び役務の提供又は工事の発注等に係る入札に参加する事業者を審議し選定する。	構成員：4名 開 催：随時
衛生委員会	職員の健康の保持増進や健康障害防止対策等について調査・審議を行う。	構成員：11名 開 催：月1回
研修委員会	職員の職務能力の体系的かつ計画的な育成を図るための研修実施に係る事項について審議を行う。	構成員：10名 開 催：年4回
倫理委員会	職員から申請された医療行為及び臨床研究に係る臨床研究計画並びにそれらの成果の公表内容について審査を行う。	構成員：6名 開 催：随時
広報委員会	センター広報紙、ホームページ等の企画、編集、発行に関することを審議し実務を行う。	構成員：12名 開 催：年3回
情報システム管理委員会	情報システム機器の適切な導入、修繕、改良又は管理運用等に関して審議・決定する。	構成員：8名 開 催：年1回
苦情等対応委員会	センターの信頼及び適正性を確保するため、利用者等の苦情等を円滑に解決するための方策について協議・処理を行う。	構成員：7名 開 催：随時
診療報酬等改善・診療情報管理委員会	診療報酬の算定、請求事務の適正化等保険診療に関する諸問題について審議を行い、疾病統計の報告を行う。	構成員：19名 開 催：年6回
医療安全管理委員会	医療安全管理体制の確保及び推進に関する全般的事項について審議を行う。	構成員：9名 開 催：月1回
リスクマネジメント委員会	アクシデント・インシデント事例の原因分析を行い、当該事象の再発防止等の協議を行う。	構成員：21名 開 催：月1回
感染対策委員会	院内感染の未然防止及び発生時の迅速かつ適切な対応を行う。	構成員：32名 開 催：月1回
感染性廃棄物管理委員会	感染性廃棄物の適正な処理を確保するために必要な事項を検討・決定する。	構成員：20名 開 催：年1回
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全管理を図り、患者の安全を確保のための対策を講じる。	構成員：21名 開 催：年1回
医療機器安全管理委員会	医療機器の安全管理を図り患者の安全を確保するための対策を講じる。	構成員：20名 開 催：年1回
褥瘡対策委員会	褥瘡の発生防止のための体制を整備するとともに、褥瘡発生時に速やかに対策できるよう協議を行う。	構成員：13名 開 催：年2回
臨床検査適正化委員会	臨床検査の適正な管理および効果的な運用等に関して検討を行う。	構成員：9名 開 催：年3回
手術・輸血療法委員会	手術及び輸血療法の適正な運営及び安全管理体制等に関して審議を行う。	構成員：14名 開 催：年1回
薬事委員会	医療の質の向上を目的に、採用医薬品の採用や削除、適正な管理等に関して審議を行う。	構成員：8名 開 催：年4回
栄養管理委員会	栄養サポートチーム（NST）を含む栄養管理業務および給食業務の円滑かつ効率的な運営を図るため審議を行う。	構成員：13名 開 催：年2回
入院審査会	医療センターにおける入院申し込み患者についてICFに基づき、入院の適否等に関して協議を行う。	構成員：11名 開 催：週1回
障害者自立訓練センター利用判定委員会	障害者自立訓練センターにおける自立訓練サービスの利用希望者の利用の適否の判定を行う。	構成員：13名 開 催：随時
医療放射線管理委員会	診療放射線の安全利用に係る管理のため検討を行う。	構成員：4名 開 催：年1回
新型コロナウイルス感染症対策本部	患者、利用者、職員等が新型コロナウイルス感染症に感染したとき等迅速かつ確かな対策を講じ、感染の拡大を防止する。	構成員：18名 開 催：随時
防災委員会	各種災害が発生した際、患者・利用者・職員等の安全を確保するための防災対策・減災対策の検討を行う。	構成員：7名 開 催：随時

第2 医療センター

1 診療概要

(1) 概要

脳血管疾患、脊髄損傷、骨・関節疾患の主として回復期の時期の患者や小児神経疾患、小児整形外科疾患などの重度の障害を持つ者に対して、専門かつ高度のリハビリテーション医療を行うとともに、小児科治療、整形外科的手術治療を行っています。

<医療の基本的コンセプト>

- ①主に運動器に障害のある乳幼児から高齢者に至るまでのあらゆる年齢層に対して、多職種連携による専門的なリハビリテーションを提供します。
- ②「疾患や障害を診るのではなく患者を診る」という精神で治療に当たります。
- ③リハビリテーション医療は原則として短期・集中型とします。
- ④診療、訓練、社会参加に至る一貫したリハビリテーションを提供するとともに、地域のリハビリテーション実施機関等への支援に努めます。また、医療、社会、教育、職業といった各分野の関係機関と連携を図りながら、総合的なリハビリテーションを提供します。

外来部門では、主にリハビリテーション科、小児科、整形外科、神経内科の診療を提供します。また、心身障害児の早期診断、早期治療に努めるとともに、地域療育推進事業や身体障害者自立支援事業に対する援助を行っていきます。

入院部門では、回復期リハビリテーション病棟である5階及び6階病棟は、リハビリテーション科、整形外科、神経内科の連携のもと、回復期リハビリテーションの充実に努めています。4階病棟では、整形外科で体幹・四肢の機能改善を図るとともに、障害児の感染症治療や小児神経疾患に対する小児科診断・治療を行います。リハビリテーション科、神経内科では脳血管障害等のリハビリテーションも実施します。また、一般病棟の特性を生かして、回復期リハビリテーション病棟の対象外の下肢骨折・上肢骨折や回復期リハビリテーション病棟の入棟期限を過ぎた患者のリハビリテーションも行います。

(2) 病床数と診療科目

① 病 床

4階病棟 40床 5階病棟 40床 6階病棟 40床

② 診療科目

常 設：リハビリテーション科、小児科、整形外科、神経内科

非常設：消化器内科

毎週火曜日

歯 科

毎週火・金曜日

泌 尿 器 科

毎月第2金曜日・第4金曜日

皮 膚 科

毎月第2火曜日

耳鼻いんこう科

毎月第4水曜日

眼 科

毎月第4木曜日

2 各診療科（常設科）

(1) リハビリテーション科

概要

脳血管性の病気等を原因として生じた、主に回復期（発症から1～6カ月）の運動障害や言語障害等に対して診断と治療を行っています。患者の機能を評価し、今後の予測や訓練の目標を設定し、患者を中心としたチーム医療を推進しています。

回復期リハビリテーションにおける入院患者に対して、社会復帰後の日常生活を想定した具体的なリハビリテーションを集中して行っています。高血圧・糖尿病等の合併症に対する治療・指導も合わせて行っています。嚥下障害に対して、嚥下造影検査(VF)と嚥下内視鏡検査(VE)を行っています。高次脳機能障害を有する脳外傷患者等に対して高次脳機能障害支援拠点機関として入院治療を行っています。

また、外来では筋痙縮に対するボツリヌス療法も実施しており、車椅子（シーティング）外来では、最新の座位保持装置・車椅子の提供に努力しています。高次脳機能障害・失語症患者に対して言語療法士とともに治療を行っています。障害者手帳意見書・障害年金診断書の作成、脳血管疾患患者を中心とした装具作成も行っています。

スタッフ紹介（令和5年4月1日現在）

診療部長：船越 政範

リハビリテーション科副主幹兼科長：中澤 征人

リハビリテーション科副主幹兼医長：鈴木 尚

活動実績

入院外来での診療の外に、月2回の障害者自立訓練センター（駒生園）におけるリハビリテーション科所内診察を行っています。障害者総合相談所の補装具担当から適宜相談を受けて、月1回の補装具判定会議に参加し、高次脳機能障害支援拠点機関からの外来相談を適宜受け、精神保健福祉手帳意見書、障害年金意見書の作成を行っています。とちぎ高次脳機能障害友の会の顧問として、総会、講演会に参加しています。

人材育成への取り組み

リハビリテーション科の専門医取得を目指している医師に対し、指導を行っています。

実習生受入れ状況

新型コロナウイルス感染症により、獨協医科大学リハビリテーション科学講座からの医学生・研修医の実習受け入れを停止していました。

今後の方向性

栃木県内のリハビリテーション科専門医39名のうち、リハビリテーションセンターに5名が常勤で勤務し、リハビリテーション科専門医の自治医科大学・獨協医科大学・東京慈恵会医科大学の認定研修プログラムの研修施設として登録しています。リハビリテーション科の専門性を生かした施設として活動していきたいと考えています。

(2) 小児科

概要

小児科は、小児神経疾患全般にわたる診断治療と療育に携わっています。患者の主な疾患は、発達障害では自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症（ADHD）、限局性学習症で、他には脳性麻痺などの小児の運動障害や小児てんかんの治療、神経筋疾患や代謝性疾患などがあります。内服治療や療育・リハビリテーションなどを個々の症状に合わせて提供するよう心がけています。また、こども発達支援センターでは医療・福祉型の通園や卒園した子ども達へのフォローアップを、こども療育センターでは入所のほか日中一時支援や短期入所を、病棟入院では急性期を脱した後の短期・集中的なリハビリテーションや在宅移行支援などを行っています。必要に応じて、扁平足や側弯のご相談なども、院内の整形外科やリハビリテーションの専門医などと連携し行っています。小児科は様々な分野を含む診療であるため、単なる疾患の診療や治療・訓練・療育などだけではなく、患者とその家族が抱える多面的な問題を、当センターのスタッフだけでなく、地域・学校との協力関係の中で解決・軽減するよう努めております。

スタッフ紹介（令和5年4月1日現在）

医療局長：山形 崇倫

小児科副主幹兼科長：栗島 真理

小児科医師：増田 卓哉

活動実績

外来の診療では、月に延べ500件の定期的な診察と、月に約45例の初診患者の診療を行っています。週に1回はリハビリテーション部門とのカンファレンスを行い、個々のケースに応じた検査や治療の方向性をチームで検討しています。また、地域療育支援事業として年に2回の研修会で、発達障害や療育・リハビリテーションなど幅広いテーマに関する講演会を実施したり、教育機関との連携事業として医療連携外来を個々のケースに対して行い、療育・教育の現場との連携に努めています。他にも、障害者手帳意見者、障害年金診断書の作成などを行っています。

人材育成への取り組み

自治医科大学の「小児神経専門医」研修認定施設となっており、小児神経専門医を取得するために必要な経験を積むことが可能です。令和元（2019）年度からは自治医科大学小児神経科から定期的に診療の援助を頂きつつ、小児神経専門医取得を目指している若手医師が研鑽を積めるよう教育体制を整えています。

また、自治医科大学子どもの心の診療科と連携し、令和5（2023）年度から「子どものこころ専門医」の研修連携施設となりました。子どもの心の発達を学ぶ施設としての教育体制も整えています。

実習生受入れ状況

小児科専門医・指導医が常勤しており、自治医科大学臨床研修センターや小児科学講座からの研修医の実習受け入れ体制が整っています。小児科および小児神経領域に興味のある医学生や医師の見学も受け入れています。

今後の方向性

現在も、紹介を受けるのは医療機関のみならず、市町村、健康福祉センター、教育機関など多方面にわたっていますが、今後はさらなる地域連携の強化を目標として、地域療育支援における活動を増やしていくと共に、県内の多様な療育や教育の現場で、小児神経科専門病院として積極的に相談・指導に応じ、連携を図っていきたいと考えています。また、「小児神経専門医」および「子どものこころ専門医」の自治医科大学の研修認定施設として登録されており、小児神経科の専門性を生かした施設として活動していきます。

(3) 整形外科

概要

整形外科は頭部以外の骨・関節・筋肉などの運動器の痛みや変形、機能障害を治療対象としています。その範囲は広く、骨折などの外傷、リウマチや変形性関節症などの関節疾患、頸椎・腰椎など脊椎の疼痛や機能障害、脊髄損傷、切断と義肢・装具、骨粗鬆症などの代謝性疾患、小児整形外科疾患、さらに麻痺に対する機能再建など多方面にわたっています。

入院では、交通外傷による多発骨折や大腿骨頸部骨折の術後、人工膝・股関節置換術後などに対して、運動器もしくは回復期リハビリテーションを行っています。上肢・下肢の切断に対して義肢の作製・訓練にも取り組んでいます。在宅復帰や社会復帰を目指し、専門医療スタッフと機能評価および目標設定を行い、チーム医療を推進しています。

また外来では、術後早期のリハビリテーションや障害児リハビリテーションを行っています。装具外来ではQOLの向上を目的として、補装具の提供に努力しています。

小児では、ボツリヌス療法や手術を行うことにより、運動発達を阻害する因子（痙性、変形、拘縮など）を取り除き、リハビリテーションと併せて本来もっている機能を最大限に引き出すことを目標としています。

スタッフ紹介（令和5年4月1日現在）

理事長兼所長：星野 雄一

医務課長：石塚 謙

副主幹兼整形外科科長：石川 義久

整形外科医長：村山 瑛

活動実績

延べ入院患者数 10,293 人

延べ外来患者数 1,995 人

年間手術患者数 4 人

栃木県障害者総合相談所の巡回相談への支援 年2回

栃木県立衛生福祉大学保健看護学部看護学科専科での講義

今後の方向性

多様化する症状やニーズに対して、最大限の機能回復と質の高い日常生活を獲得できるよう、多職種と連携を図りながらチーム医療を推進していきます。

患者・利用者からより信頼を得られるよう、研修や教育にも力を入れ、知識・技術や接遇の向上を図ると共に、安心安全なサービスの提供に向けリスク管理の意識を高めていきます。

宇都宮市近郊の連携機関との情報交換を密に行い、患者・家族に最良なサービスを提供できるよう、体制を整えていきます。

また、手術件数の増を目指し、自治医科大学の小児整形外科との連携を強化していきます。

(4) 神経内科

概要

脳梗塞・脳出血などの脳血管疾患および脳・脊髄・末梢神経障害に伴う神経内科的疾患の入院および外来リハビリテーションを行っています。2019年3月に栃木県難病医療協力病院に指定され4月より神経難病外来を開設し、周辺の医療機関との連携の元に神経変性疾患等の外来リハビリテーションを行っています。

スタッフ紹介（令和5年4月1日現在）

副主幹兼神経内科科長：秋本 千鶴

神経内科医長：近藤 総一

神経内科医長：江面 道典

活動実績

入院では、脳血管疾患患者を中心に年間120症例以上を扱っており、全身管理およびリハビリテーションの処方・指導や補装具の処方・調整、リハ部との勉強会などを行っています。神経内科的疾患の入院は年度によりややばらつきがありますが、概ね年間10例程度の入院があります。ギラン・バレー症候群や慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー（CIDP）などの末梢神経障害や視神経脊髄炎、パーキンソン病の急性増悪による入院リハビリテーションがありました。また、筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者のご家族のレスパイトを兼ねた入院リハビリテーションを行いました。

外来では、医療保険によるリハビリテーション対象神経難病患者の診察およびリハビリテーション処方、自助具や補装具の紹介・作成を行っています。疾患は多岐にわたっており、神経変性疾患のパーキンソン病や多系統萎縮症、ハンチントン舞蹈病、筋萎縮性側索硬化症、筋強直性ジストロフィー、脱髄性疾患の多発性硬化症、末梢神経障害のシャルコー・マリー・トゥース病などがあります。

また、日本脳神経学会および日本リハビリテーション医学会を中心に定期的に学会発表を行っています。

今後の方向性

当院は医療保険によるリハビリテーションのみを行っている事もあり、全身の機能が低下するような神経難病患者の多くは病状の進行と共に介護を必要とし、介護保険によるリハビリテーションに移行していくため当院でのリハビリテーションが途中で中止となる事が多いのが現実です。今後は回復期のみならず維持期および生活期のリハビリテーションを展開していけるように、病院の体制を整えていく必要があると考えています。

また地域のニーズを的確に捉え、今後さらに増加する高齢者の健康をリハビリテーションの面からサポートしていきます。

3 地域医療連携室

概要

地域医療連携室は、医療ソーシャルワーカー4名で対応しています。

主な業務は医療機関からの入院相談、入院患者に対する退院支援になります。病棟でのカンファレンスへの参加、本人・家族との面談を通して適切な場所へ退院できるように調整しています。

その他、医療福祉相談として入院患者・外来患者の療養上の困りごとに対しての相談の対応をしています。

1 入院相談

入院相談の窓口として、地域の医療機関の先生方、介護保険関連機関、医療福祉関連機関と連携をはかり、円滑な転院、入院できるように調整します。

2 退院支援

当センターに入院してから退院されるまで、患者さんやご家族が安心して生活ができるよう退院後を見据えながら継続的に関わり、退院先を検討するにあたり、院内の多職種と協働して支援させていただきます。必要なサービスや諸手続き、社会資源について情報提供を行います。必要に応じて地域の関係機関と連携し、退院後の生活につなげます。

3 医療福祉相談

病気や怪我をきっかけとして生じた経済的・社会的・心理的な困りごとを、患者さん・ご家族が解決できるよう支援させていただきます。医療・福祉・介護の制度や医療機関、介護保険施設等についての情報提供を行い、必要に応じて連携を取らせていただきます。

4 地域連携活動

医療・介護や障害の関係機関の方々、障害者総合相談所（栃木県高次脳機能障害支援拠点機関）などの情報交換を通し、地域の関係機関と顔の見える連携の推進に努めています。

スタッフ紹介（令和5年4月1日現在）

副主幹兼地域医療連携室長 高橋 恵子

他 社会福祉士3名

活動実績

1 月別相談件数 (単位：人・件)

月	H30	R1	R2	R3	R4
実人員	2,123	2,376	2,243	2,085	2,087
件数	11,652	12,432	13,037	12,981	13,574

※入院・外来患者の電話・面接、院内及び関係機関との連絡調整、病院利用及び入院の照会等の件数を計上

2 カンファレンス等参加件数 (単位：人・件)

	H30	R1	R2	R3	R4
カンファレンス	320	396	603	591	605
入院時合同評価	162	473	466	408	448

3 脳卒中に係る地域連携クリティカルパス運用件数 (単位：件)

	H30	R1	R2	R3	R4
実人員	138	116	39	29	24

※実人員は入院月で計上

4 大腿骨頸部骨折に係る地域連携クリティカルパスの運用件数 (単位：件)

	H30	R1	R2	R3	R4
実人員	9	23	10	6	2

人材育成への取り組み

栃木県医療社会事業協会、日本医療ソーシャルワーカー協会、回復期リハビリテーション病棟協会など主催の研修会に積極的に参加し、知識や技術の習得・自己研鑽に努め、また、市町・関係機関主催の連携会議や研修会に参加し、関係機関との関係作りに努めています。

今後の方向性

- ・適切な時期に適切なリハビリテーションを受けられるよう、入院相談に応えます。
- ・患者さんの状態と環境に合わせた支援ができるよう、入院時評価やカンファレンスを通して院内他職種と共同して支援に努めます。
- ・地域研修会への参加や退院後の状況確認を通して、地域の医療・福祉・介護の関係機関と連携関係を構築し、社会資源を活用できる体制を整えることで、患者さんが退院後も安心して生活できるように支援していきます。

4 薬剤科

概要

薬剤科は、外来及び入院調剤、医薬品管理、医薬品情報管理・提供、薬剤管理指導などの業務を実施しています。

調剤業務は、調剤支援システムを活用し、外来及び入院処方について調剤を行っています。調剤時には薬歴に基づいた処方鑑査を行い、患者個々に対応したオーダーメイド調剤を実施しています。

具体的には、嚥下困難患者や経管栄養患者のために錠剤の粉碎や多種の散剤を混合するなど、個々の患者のニーズに合わせて服用しやすいよう心がけています。また、入院患者については原則一包化調剤を実施しています。注射薬は、内用薬等と同様に注射処方箋の処方鑑査を行い、患者ごと個別に取り揃えています。

薬剤管理指導業務については、入院時に患者に聞き取りおよび服薬指導を行い、持参薬について鑑別、一包化調剤を行っています。当センター採用薬への切替時や処方変更時には必要に応じて服薬指導を行っています。また、退院時服薬指導については、患者が退院または転院後、適切に服薬管理出来るよう心がけています。

薬品管理については、物流管理システムにより医薬品供給と発注業務を一元化して在庫管理の効率化を図り、管理の適正化に努めています。さらに、保存条件に注意して使用期限などの品質管理を行っています。

また、医療費削減のために後発医薬品の使用促進を積極的に進めており、採用に当たっては、医療安全の面から品質等が適切であるか、安定供給が可能かなどについて十分に検討しています。

スタッフ紹介（令和5年4月1日現在）

副主幹兼薬剤科長：宮下 直子

他、薬剤師3名

活動実績

過去5年間の活動実績

年度		H30	R1	R2	R3	R4		
内 院 用	入	処方せん枚数（枚）	11,423	13,060	12,488	11,143	12,070	
		調剤件数	34,587	39,104	40,023	37,830	40,691	
	院	内服件数（件）	32,034	36,400	36,627	34,530	37,011	
		外用件数（件）	2,553	2,704	3,396	3,300	3,680	
		調剤延剤数	231,225	263,741	265,898	252,548	270,929	
	外 来 用	外	処方せん枚数（枚）	5,612	4,669	4,279	4,483	4,955
			調剤件数	10,112	8,483	8,147	9,221	10,629
		来	内服件数（件）	8,860	7,435	7,165	8,266	9,527
			外用件数（件）	1,252	1,048	982	955	1,102
			調剤延剤数	378,969	328,805	329,602	373,456	423,421
		院外処方せん発行枚数（枚）	32	46	106	141	217	
合 計	処方せん枚数（枚）	17,067	17,729	16,767	15,767	17,025		
	調剤数	44,699	47,587	48,170	47,051	51,320		
注 射	入 院	注射処方せん枚数（枚）	2,359	2,178	1,814	2,269	3,498	
		件数（件）	2,597	2,446	2,030	2,553	4,024	
	外 来	注射処方せん枚数（枚）	317	304	352	228	248	
		件数（件）	317	305	352	229	248	
	合 計	注射処方せん枚数（枚）	2,676	2,482	2,166	2,497	3,746	
		件数（件）	2,914	2,751	2,382	2,782	4,272	
服薬指導件数（入院患者対象）		62	208	40	46	509		
持参薬管理件数（件）		672	652	572	501	570		
後発品使用割合（％）		70.7	82.1	88.0	92.1	92.1		

今後の方向性

心身に障害のある乳幼児から高齢者までのあらゆる年齢層の患者に対し、薬学的観点から個々の患者の状態に応じた調剤を行っていきます。また、病棟での服薬指導を充実し、他院からの円滑な入院時服薬管理や退院後の的確な自己服薬管理に向けた患者への支援に努めます。

医薬品の有効性・安全性及び供給の安定性等に留意しつつ、後発医薬品の調剤割合の向上に努め、患者の経済的負担及び医薬品費のさらなる軽減を図ります。

5 検査科

概要

検査科では、外来及び入院患者の検体検査、生理検査を実施しています。

検体検査では、内部精度管理を実施するとともに、日本臨床衛生検査技師会臨床検査精度管理調査、栃木県臨床衛生検査技師会臨床検査精度管理調査及び各試薬メーカーの精度管理調査に参加し、検査結果の精度・基準を維持するとともに質の向上に努めています。

実施する検査項目は、重要性・緊急性およびコスト等を検討し随時見直しを行っています。本年度は、整形外科の入院患者を対象に肺塞栓症等の発症リスクの低減をはかる目的で下肢血管静脈エコーのスクリーニング検査を試験的に開始しています。

また、検査業務の他にICT（感染制御チーム）のメンバーとして、付加価値の高い情報提供に努めながら臨床支援も行っていきます。

スタッフ紹介（令和5年4月1日現在）

副主幹兼検査科長：菊池 史江

他 臨床検査技師 2名

活動実績

年度別検査 項目数

年 度		H30	R1	R2	R3	R4
検体検査	一般検査	12,108	12,867	11,074	11,026	11,602
	血液検査	21,747	22,181	18,854	18,601	20,597
	生化学検査	35,513	37,135	31,156	30,236	33,885
	血清検査	3,150	3,027	2,369	2,320	2,614
	輸血検査	34	16	18	20	15
	遺伝子検査	0	0	0	216	1,962
	細菌検査	342	401	306	294	368
	外注検査	2,717	3,124	2,092	2,087	2,656
	検体検査計	75,611	78,751	65,869	64,800	73,699
生理検査計	心電図検査	695	706	589	547	589
	負荷心電図検査	5	5	62	16	23
	ホルター心電図	14	12	6	4	12
	呼吸機能検査	12	24	10	16	8
	脳波検査	60	56	49	51	45
	聴性脳幹検査	2	0	0	2	0
	神経伝達速度検査	21	44	32	4	0
	聴音波検査	47	63	66	45	153
	生理検査計	856	910	814	685	830
計	76,467	79,661	66,683	65,485	74,529	

人材育成への取り組み

日本臨床衛生検査技師会・栃木県臨床衛生検査技師会、他の学会主催の研修会及び学会、検査機器や試薬メーカー主催の研修会などに積極的に参加し知識及び技術の習得に努めています。ただし、本年度も、新型コロナウイルス感染症のため、Webを活用した学会、研修会への参加が主でした。

今後の方向性

引き続き新型コロナウイルス関連の情報を早急に捉え、院内の感染対策に努めます。

迅速で正確な臨床検査データの提供を第一に考え、医療サービスの向上に努力していきます。

各診療科からのニーズに応えられるよう、知識及び技術の習得に努めていきます。

6 放射線科

概要

放射線科は、主に脳血管疾患、脊髄損傷、変形性股関節症、脳性麻痺・精神運動発達遅滞等の疾患児者の外来、入院、術前・術中・術後管理に必要な各種画像診断検査業務を実施しています。また、障害者自立訓練センター（駒生園）の入所者や県内特別支援学校在校生の結核検診、職員特殊健康診断（頸椎・腰椎病）等の撮影業務を実施しています。

当センターでは、患者が一人での更衣が困難な場合や検査台への移乗が困難な場合は、技師や看護師が介助を行っています。

緊張の強い脳性麻痺疾患児者の全脊椎立位撮影・足部荷重時立位撮影等には、2名の技師がチームを組んで撮影に対応しています。

重度障害児者、乳幼児、知的障害児者のMRI検査は、催眠鎮静薬を使用して熟睡した状態で検査を行っています。そのため検査時間枠内に終了しないことや中止になることもあります。

画像診断装置は一般撮影装置をはじめ、MRI（1.5T磁気共鳴イメージング装置）、CT（16列、3月から64列コンピュータ断層撮影装置に更新）、多目的X線TV装置、骨密度測定装置、CR装置、パントモ装置等を設置しています。

また、令和2年10月から開始した、MRI・CT等の共同利用は地域医療機関の診療業務の充実に寄与しています。

スタッフ紹介（令和5年4月1日現在）

診療技術課長兼放射線科長：米田 純子

他 診療放射線技師 2名

活動実績

過去5年間の活動実績

(単位：件)

		H30	R1	R2	R3	R4
X線撮影	入院	2,385	2,291	1,804	1,644	1,409
	外来	876	785	801	793	907
	計	3,261	3,076	2,605	2,437	2,316
MRI 検査	入院	289	256	188	152	154
	外来	50	46	118(74)	197(161)	235(183)
	計	339	302	306(74)	349(161)	389(183)
CT 検査	入院	457	519	496	412	530
	外来	12	19	38(12)	74(23)	142(30)
	計	469	538	534(12)	486(23)	672(30)
骨密度	入院	387	336	319	321	336
	外来	36	81	57	32	45
	計	423	417	376	353	381
X線透視	入院	68	43	26	19	39
	外来	3	5	3	1	0
	計	71	48	29	20	39
パノラマ	入院	8	4	9	3	15
	外来	7	1	0	0	1
	計	15	5	9	3	16
ポータブル	入院	92	163	67	78	80
	外来	2	3	1	2	0
	計	94	166	68	80	80
検診	入院	0	0	0	0	0
	外来	46	37	42	30	23
	計	46	37	42	30	23
CD コピー	入院	707	782	653	451	566
	外来	263	283	299	496	498
	計	970	1,065	952	947	1,064
読影依頼		165	172	213	315	419

() 内は共同利用の再掲

人材育成への取り組み

学会や、院外の研修に参加し、新しい知識や技術を習得し、自己研鑽に努めています。

今後の方向性

患者の障害の状況に合わせて安全で安心な検査が出来るよう心がけていきます。

また各種研修会に参加し、診断価値の高い画像を提供することに努めていきます。

7 栄養科

概要

栄養科では病態や障害に応じた適切な食事を提供し、疾病の治癒、機能回復の促進に努めています。医師、管理栄養士、看護師の他、多くのスタッフが一丸となり患者の栄養管理を行っています。リハビリテーションによるエネルギー消費量を考慮した食事量を提供するとともに、疾患に応じた特別食や摂食嚥下状態に応じた食事形態の嚥下調整食の対応を行っています。

食事の提供に当たっては、毎日の食事が患者のADLの向上や健康づくりに寄与できるよう、臨床栄養学に基づく栄養管理の下、季節感のある食材を活かした献立や衛生的な調理・盛り付けにも配慮し、適時・適温配膳をモットーに安全で美味しい食事となるよう努めています。

また、栄養指導では、患者一人ひとりの生活背景や原疾患を踏まえて、管理栄養士が実行可能な方法を一緒に考え提案することで、患者自らが「食事療法」の重要性を理解し、自己管理能力を高めることができるよう支援しています。

スタッフ紹介（令和5年4月1日現在）

副主幹兼栄養科長：柴田 純美

他 管理栄養士 2名

活動実績

1 多職種連携による栄養管理の実施

入院時合同評価、リハカンファレンス、栄養カンファレンス、個別支援会議、VF検査等により、患者の栄養状態や摂食嚥下機能などを多職種で評価検討を行い、栄養管理計画やリハビリテーション総合実施計画を作成し、適切な栄養管理を行いました。

2 栄養サポートチーム（NST）活動

入院患者の栄養改善を専門的かつ的確に行い、リハビリテーションの効果を向上させることを目的に医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士で構成する栄養サポートチーム（NST）を設置し、令和4年4月より活動を開始しました。

入院患者13名、延べ29件に対し、経口摂取量改善や体重減少への対応、嚥下障害に対する食形態評価等の介入を行いました。

3 栄養指導

入院及び外来患者などに対し、174件の個別栄養指導を行いました。疾患別指導件数は糖尿病49件、脂質異常症20件、高血圧症61件、低栄養11件、嚥下障害15件、高度肥満3件、その他（腎不全、心不全、貧血、痛風等）15件でした。

障害者自立訓練センター（駒生園）入所者、こども発達支援センター通園児の保護者を対象とした集団栄養指導も行いました。

4 食事の提供

入院患者や入所児者、通所通学児へ年間合計125,477食の食事の提供を行いました。食事の提供に当たり、個々の栄養状態を評価し、疾患やリハビリテーションに見合った食事の

提供を行いました。

また、ミールラウンドを通して、食形態や食物アレルギー、嗜好などの聞き取りを行い、個々に合わせた食事の提供に努めました。

5 チーム医療への参画

栄養サポートチーム、褥瘡対策チーム、感染対策チーム、骨折予防チームメンバーとして活動しました。

6 食事の満足度向上のための取り組み

食事が治療の一環であることや提供されている食事内容の理解を図るため、入院時に患者へ食事内容の説明を実施しました。

7 嗜好調査の実施

入院患者及び障害者自立訓練センター（駒生園）入所者を対象に実施しました。（回収率97.8%）。食事の満足度（「満足」「やや満足」と回答した割合）は77.0%でした。

また、こども療育センター入所児を対象に食事のアンケートを実施しました。

8 講師対応

「とちり八病院研修会」出前講座にて、17講座の講師を担当しました。

人材育成への取り組み

回復期リハビリテーション病棟協会管理栄養士スキルアップセミナー（基礎研修）

回復期リハビリテーション病棟協会管理栄養士スキルアップセミナー（アドバンス研修）

日本臨床栄養代謝学会学術集会

全国自治体病院協議会栄養部会オンラインセミナー

集団給食施設における新型コロナウイルス感染症対策セミナー

給食業務従事者研修会

今後の方向性

1 栄養サポートチーム（NST）活動の推進

栄養サポートチーム（NST）の活動を推進し、多職種連携による栄養管理体制の強化を図り、より効果的なリハビリテーションを実施していきます。

2 安心安全でより美味しい食事の提供

衛生管理や食の安全に考慮した食事提供及び嗜好調査や患者満足度調査結果等を考慮し、より食事の満足度を向上できるよう所内多職種で連携を図り検討を行います。

3 退院後の療養への支援

退院後の再発を防止し、健康管理を図ることができるよう、積極的に入院栄養食事指導を行い指導件数の増加を図ります。

8 リハビリテーション部

概要

リハビリテーション部は、入院および外来患者に対し、理学療法・作業療法・言語聴覚療法を行い、疾患の特性に応じた質の高いリハビリテーションの提供に努めています。

入院患者については、365 日リハビリテーションを提供しています。リハビリテーション医療はチーム医療であり、各科各職種の連携を図るため、入院カンファレンスを入院日、1 週目、月ごとに行い、情報を共有し患者へのサービス向上に努めています。機能的な回復を目指しつつ、在宅生活にスムーズに移行できるように応用動作の獲得や住環境に関する助言も積極的に行っています。

令和4年度からは外来療法科が新設され、外来部門のさらなる充実に向けて取り組んでいます。

対外的には、県内他施設への技術支援として出前講座の開催、ロコモティブシンドロームの啓発活動、養成校からの実習生受け入れ等、地域支援にも取り組んでいます。

<理学療法科>

脳血管疾患や運動器疾患等の患者に対し、基本的動作能力の回復や日常生活動作の改善を図ります。寝返り、起き上がり、移乗、立ち上がり、歩行等の能力を評価分析して、運動療法を中心とした理学療法を行っています。

<作業療法科>

より具体的な生活をイメージし、心身機能等の基本的動作能力の改善を図り、日常生活動作の獲得を目指します。退院後の生活を見据えて家事などの応用的動作の練習や住環境の整備、必要時には自動車運転再開に向けた支援も行います。

<言語療法科>

主に失語症・高次脳機能障害の患者を中心に、機能回復や代替手段獲得へのアプローチを実施しています。また、嚥下障害の患者に対し、機能回復への働きかけのほか姿勢の調整や食形態の選定を行っています。

<外来療法科>

外来では、小児から成人まで幅広く対象としていますが、6割程度が18歳未満の小児となっています。小児に対しては、遊びも含めた作業活動や課題を通し、基本的動作能力やコミュニケーションなどの発達を目的にしています。身体状況に合わせた車いすや座位保持装置作製などシーティングへの関わりも行います。また、お子さんの在籍する保育園や幼稚園、学校等とも情報交換をしながら連携を図っています。

成人では、退院後の生活の安定を目的に、退院患者へのフォローアップにも取り組んでいます。

スタッフ紹介（令和5年4月1日現在）

リハビリテーション部長 和久井 千夏子

リハビリテーション部副部長兼自立訓練科長 半田 孝之

リハビリテーション部副部長兼理学療法科長 長崎 隆司

副主幹兼外来療法科長 徳淵 光康

作業療法科長 土屋 綾子

言語療法科長 亀田 真弓

他 理学療法士 34名

作業療法士 29名

言語聴覚士 11名

回復期セラピストマネージャー 3名 長崎 隆司 土屋 綾子 稲村 恵理子

リハビリテーション実施単位数

（1単位＝20分）

		H30	R1	R2	R3	R4
理学療法	入院	88,793	112,112	110,729	100,110	114,423
	外来	7,599	7,569	6,416	6,824	7,262
	計	96,392	119,681	117,145	106,934	121,685
作業療法	入院	67,817	94,131	104,145	94,703	87,077
	外来	2,983	2,935	4,109	4,376	5,739
	計	70,800	97,066	108,254	99,079	92,816
言語療法	入院	39,732	37,968	40,272	36,883	36,194
	外来	3,558	3,387	2,795	2,635	3,544
	計	43,290	41,355	43,067	39,518	39,738
総 合 計		210,482	258,102	268,466	245,531	254,239

人材育成への取り組み

リハビリテーションサービスの充実を目的として、職員の採用を進めるとともに、新採用職員教育プログラムを体系化し、教育面の強化を行っています。新人向けのみならず、経験のある職員についても経験年数別の到達目標を掲げ、職員に自己研鑽を促すとともに、院外研修を含めた段階別研修の履修をすすめています。また、リハビリテーション部および各療法科のプログラムに加えて、看護部と協力し、合同研修会を企画実施するなど、教育面においても連携しています。業務面においては、チーム制をとり、スタッフ全体でチーム内の患者を担当できるよう、経験年数に関係なくお互いにフォローし合う体制づくりに努めています。

実習生受入れ状況

令和4（2022）年度 実習受け入れ

	実習生情報			実習期間		
		学校等	人数	開始日	終了日	延べ日数
理学療法科	総合実習	A	1	R4.4.4	R4.6.5	63
	総合実習	B	1	R4.5.9	R4.7.30	83
	総合実習	C	1	R4.5.16	R4.7.8	54
	総合実習	D	1	R4.6.20	R4.8.6	48
作業療法科	総合実習	A	1	R.6.20	R4.8.21	63
	総合実習	B	1	R4.8.22	R4.10.7	47
	評価実習	A	1	R4.10.24	R4.11.20	28
	評価実習	B	3	R5.1.9	R5.2.17	114
	見学実習	A	11	R5.2.21	R5.2.21	11
	見学実習	A	10	R5.2.24	R4.2.24	10
言語療法科	実務研修	X	1	R4.4.13	R4.8.29	22
	総合実習	B	1	R4.5.30	R4.7.23	55
	評価実習	B	1	R4.9.8	R4.9.22	15
	評価実習	E	1	R4.10.31	R4.11.25	26
	実務研修	Y	1	R4.12.8	R5.2.16	11

今後の方向性

リハビリテーション部では、センター中期計画に沿って、計画達成に向けて取り組んでいます。今後の充実したリハビリテーションサービスの提供・経営改善にむけ、状況に応じた柔軟な人員配置や運営方法、体制構築のために必要な人員確保と育成に取り組んでいます。

引き続き、入院患者の早期の生活能力向上を実現すべく、リハビリテーションのさらなる質的向上を目指すとともに、退院後の支援のあり方についても検討していきます。

9 看護部

概要

看護部は、乳幼児から高齢者まで様々な障害をもつ患者や利用者に対し、QOL向上を支援し、家庭や職場、地域社会での自立に向けて、継続看護をしています。また、リハビリテーション医療を提供する専門職種チームの一員として知識・技術を高め、良質な看護の提供に努めています。

	部署	業務の概要	勤務体制
病 院 部 門	外来 常設4科 非常設7科	限られた時間内に患者が安心して診察を受けられるよう診療補助に努めています。また、患者・家族・利用者の一人ひとりのニーズに応じた支援を行い、地域と連携しています。	通常勤務
	5階・6階病棟（各40床） リハビリテーション科 神経内科・整形外科	脳血管疾患と脊髄損傷等の患者が入院する回復期リハビリテーション病棟。患者のADL向上と在宅復帰支援のため、多職種で協働しています。	2交代制 2人夜勤
	4階病棟（40床） 整形外科 リハビリテーション科 神経内科・小児科	回復期にある整形外科、リハビリテーション科、神経内科の患者のリハビリテーション看護と整形外科手術後や小児神経疾患患者の看護、ボトックスや高次脳機能評価の短期リハ入院など、看護の対象が多岐に渡ります。	2交代制 2人夜勤
	手術 中央材料室	QOLやADL向上のための筋・腱・骨・関節などの整形外科的手術を実施しています。中央材料室では、衛生材料の物品管理を行っています。感染症対策としてPPEの適切な採用と在庫管理に取り組んでいます。	通常勤務
施 設 部 門	こども療育センター （33床）	多職種と連携し、入所児一人ひとりのQOL維持向上を目指した成長発達支援、家族支援を行っています。また、短期入所、日中一時支援事業により、地域で生活する障害児、保護者の在宅支援に取り組んでいます。	2交代制 2人夜勤
	こども発達支援センター	親子通園している心身に障害を持つ児童の健康管理・相談を行っています。	通常勤務
	障害者自立訓練センター （駒生園）	18歳以上の身体障害者、高次脳機能障害者を対象に利用者が自立して生活できるように支援しています。	通常勤務

スタッフ紹介（令和5年4月1日現在）

管理責任者	スタッフ数
看護部長：岩澤 麻由美	
看護副部長：石川 久美子	
看護副部長兼中材・手術室師長：伊藤 智子	1名
外来師長：廣田 桃子	5名
4階病棟師長：小野 美佐	19名
5階病棟師長：鈴木 朝子	19名
6階病棟師長：小林 晃美	19名

認定看護師資格取得者	氏名
脳卒中リハビリテーション看護 3名	廣田 桃子 岡本 淳 片山 泰司
回復期リハビリテーション看護師 3名	伊藤 智子 小林 晃美 平出 昌子
摂食・嚥下障害看護 1名	横田 由紀

活動実績

看護部委員会	活動の概要
教育委員会	年間教育プログラムに沿って専門研修、リハビリテーション部との合同研修、クリニカルラダー研修を実施。
業務委員会	「看護基準」「看護手順」の見直しを実施。
記録委員会	看護記録マニュアル、電子カルテマニュアルの見直しを実施。 看護記録形式的・質的監査を実施。新採用者への電子カルテシステム研修実施。
臨床指導者委員会	実習生の実習受け入れ、実習指導者ハンドブックの見直しを実施。 新型コロナウイルス感染症をふまえた実習マニュアル作成と実施。
認定看護師委員会	職員への研修企画実施、看護ケアの指導・相談。 家族および患者に対する脳卒中再発予防指導への取り組み。 NST 活動、リンクナースへの教育・指導。 高齢者施設等における出前講座、院外研修の実施。
ふれあい看護実行委員会	4校9名の高校生を受け入れ、感染対策を講じた上でふれあい看護体験を実施。

人材育成への取り組み

次の教育目標を掲げ、人材育成に取り組んでいます。

また、教育プログラムには、クリニカルラダー、eラーニングによる自己学習の導入をしています。

令和4（2022）年度は感染症対策を講じた上で、集合教育を開催しました。

- ①リハビリテーション看護の専門的知識と技術を習得し、患者のニーズに沿った個別的な看護実践ができる
- ②多職種との連携・協働ができる看護師を育成する
- ③科学的根拠のある看護が実践できる看護師を育成する
- ④主体的に学び、自己研鑽ができる看護師を育成する
- ⑤積極的に認定看護師の育成に努める

実習生受入れ状況

令和4（2022）年度は、感染症対策を講じた上で、小児看護学実習として4つの看護専門学校のオンライン研修と成人看護学、老年看護学、統合実習、基礎看護実習として栃木県立衛生福祉大学の300名を受け入れました。

今後の方向性

患者の自立に向けた質の高いリハビリテーション看護を実践し、安全・安心な環境を提供します。また、看護学生や他病院・施設からの看護師の実習、高校生・中学生の職場体験を積極的に受け入れます。

第3 こども発達支援センター

1 概要

こども発達支援センターは、児童福祉法に基づく福祉型児童発達支援センターと医療型児童発達支援センターからなる障害児通所施設です。

心身に障害のある児童に対して、専門職が障害に応じた保育や看護、各種リハビリテーション、心理療法などを提供するとともに、保護者の様々な悩み・相談にも応じることで総合的な療育を提供し、児童の健やかな発達を支援しています。

また、児童と家族が、地域の中で、ライフステージに応じた医療や福祉、教育などを適切に利用できるよう、病院や障害児サービス事業所あるいは保育園・学校などへの技術的な支援も行っています。

令和3年度には保育所等を訪問して児童を支援する事業も開始し、本県における心身障害児早期発見・早期療育システムの中核機関としての役割を果たすべく努めています。

2 スタッフ紹介（令和5年4月1日現在）

施設部長：山中 英雄

通園療育課長：重田 恭一

通園育成科長：高橋 節子（保育士）

臨床心理科長：谷川 麻記（公認心理師、臨床心理士）

通園リハビリテーション科長：室井 亜紀子（理学療法士）

副主幹兼通園看護科長：加藤 洋子（看護師）

訪問支援科長：佐藤 文子（言語聴覚士）

他 保育士 13名

公認心理師 4名

理学療法士 2名

作業療法士 2名

言語聴覚士 1名

3 活動実績

(1) 通園事業

ア 児童発達支援センター及び医療型児童発達支援センター

児童発達支援センター（センター内呼称：福祉型クラス）は、発達障害などのある児童に対して、医療や保育・福祉などの多様な側面から総合的な発達を促すとともに、社会生活に必要な知識や技能などを獲得できるように援助することを目的としています。

医療型児童発達支援センター（センター内呼称：医療型クラス）は、上肢、下肢又は体幹の機能の障害（肢体不自由）のある児童に対して、医学的リハビリテーションのほか、保育や福祉などの多様な側面から、機能の改善・発達を促し、集団生活に適應できるよう援助することを目的としています。

ともに親子通園施設であり、次のステップ（幼稚園や保育園、親子分離の療育施設、特別支援学校等への通園（通学））に繋がられるよう一人ひとりの療育目標を立て、その達成に

に向けた集団指導と個別訓練を提供しています。

また、親子通園であることを活かし、保護者に対しても、子どもの発達に関する正しい知識や子どもとの適切な関わり方を学べるよう支援しています。

イ 定員

児童発達支援センター 30人
医療型児童発達支援センター 30人

ウ 通園期間

原則1年以内

エ 通所支援の提供日及び提供時間

クラスごとに通園曜日を定めて、週3日の通園
時間は午前10時～午後2時

オ 通園のパターン

区分		通園曜日				
種別	クラス名	月	火	水	木	金
福祉型クラス	ぱんだ組		○		○	○
	こあら組	○		○	○	
	うさぎ組		○	○		○
	ひよこ組	○		○	○	
医療型クラス	きりん組		○	○		○
	りす組	○	○		○	

カ 事業の実績

① 通園児数

(単位：人)

		H30	R1	R2	R3	R4
福祉型クラス	実人員	457	429	396	287	440
	延人数	4,223	3,651	2,964	2,430	3,819
医療型クラス	実人員	182	148	121	191	239
	延人数	1,236	1,066	832	1,414	1,374

※人員は毎月初日在籍児数

② 通園児の訓練等の実施状況（年間延べ件数）

（単位：件）

区分	H30			R1			R2			R3			R4		
	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計	福祉	医療	合計
診察	191	116	307	12	61	189	119	97	216	69	85	154	93	96	189
理学療法	0	1022	1022	0	676	676	14	493	507	0	727	727	0	603	603
作業療法	754	189	943	591	182	773	731	190	921	418	242	660	483	181	664
言語療法	452	170	62	399	161	560	350	99	449	308	195	503	467	191	658
心理相談	363	116	479	405	129	534	382	112	494	276	172	448	473	167	640

※保育場面参加件数を含む

(2) 保育所等訪問支援事業

こども発達支援センターでは、令和3年度から保育所等訪問支援事業を開始しました。

これは、ご家族からの依頼により、職員がお子さんの通う保育所や幼稚園等に出向き、当該保育所等のスタッフと情報を共有し、お子さんがより健やかに成長できるように、また集団生活の場所で安心して過ごせるよう支援する事業です。

ア 対象児：県内在住で、集団生活を営む保育所等の施設に通っているお子さん

イ 利用期間：1年（基本、期間延長可）

ウ 訪問回数：月2回以内

昨年度（令和3年度）の利用契約者数は15人、今年度（同4年度）は17人であり、事業利用者は落ち着いた増加傾向を見せています。

(3) 地域療育支援事業

こども発達支援センターでは、例年、肢体不自由児や発達障害児等が、住み慣れた地域で必要な医療・福祉サービスを利用できるよう、地域療育支援事業として、地域の児童発達支援事業所等を対象とした研修会を開催するとともに、技術習得（センターとしては支援）を目的とした実習を受け入れています。

例年、児童発達支援事業所や保育所・幼稚園、市町等の職員を対象とした医師、療法士等による研修会を1～2回開催しています。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため令和2年度・3年度は1回の開催としましたが、4年度は2回開催しました。

実習の受け入れは、1回の受け入れ人数は2人以内とするなど感染対策を徹底し、かつ感染者の少ない時期に集中的に実施することで、目標である25回を大きく超えた45回を実施することができました。

今後とも利用児童へのストレスなどを考慮しながら、効果的な実習受け入れに取り組んで参ります。

(4) 通園児・退園児の情報交換等

こども発達支援センター利用児の療育向上に資するため、通園中及び退園後において、利用児が関係する保育所、幼稚園、相談支援事業所等との情報交換や技術支援を行っています。

	H30		R1		R2		R3		R4		
	施設数 (件)	対象児童 (人)									
来 園	保育園	2	2	4	4	1	1	0	0	2	2
	幼稚園	5	6	3	4	7	8	1	1	5	6
	通園施設	6	6	1	1	0	0	1	2	0	0
	相談支援事業所	23	34	18	26	6	11	8	12	9	13
	児童発達事業所	15	14	15	21	0	0	0	0	0	0
	計	51	62	41	56	14	20	10	12	16	21
訪 問	保育園	1	1	2	2	1	1	2	2	3	3
	幼稚園	7	13	13	17	6	8	16	16	12	17
	通園施設	1	5	1	2	1	1	1	1	2	2
	相談事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	児童発達事業所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	9	64	16	44	8	26	19	35	17	43

3 こども発達支援センター

(5) 退園児療育支援外来（フォローアップ外来）事業

こども発達支援センター利用児の退園後の療育の場を提供することにより、地域での生活を支援するために実施しています。

なお、この外来は原則として退園後から就学前とし、こども発達支援センターの訓練室等を利用して通園療育課の職員が実施しています。

退園児療育支援外来（フォローアップ外来）の実績

（単位：件）

区分	H30			R1			R2			R3			R4		
	福祉	医療	合計												
理学療法	0	114	114	0	310	310	0	299	299	11	139	150	11	155	166
作業療法	117	8	125	134	30	164	162	40	202	264	11	275	289	75	364
言語療法	120	14	134	299	12	307	255	35	290	237	20	257	329	54	383
心理相談	216	0	216	241	10	251	169	15	184	207	0	207	158	7	165

（注）入園前外来も含む

4 人材育成への取り組み

センターの利用児に適切な療育を提供し、また、保護者を支援するためには、専門的知識や技術を習得する必要があるため、内外の研修（令和4年度は主にリモート）に積極的に参加し、職員の資質の向上に努めました。

5 実習生受け入れ状況

地域の関係者への技術支援のため、実習生等を積極的に受け入れています。

平成31年度までは、歯科衛生士専門学校の実習生を延べ日数で9日間受け入れていましたが、令和2年度からは実習と新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の両立を図るため、延べ日数を6日に減らすほか、直接的な口腔ケア実習を避けるなどしています。

令和4年度は昨年度とほぼ同じ28名を受け入れました。

また、地域療育支援事業（再掲）は、1回の受入れ人数を概ね2人以下に限定するなど感染対策を徹底し、かつ感染者の少ない時期に集中実施することで、計45回（57人）の実習を受け入れました。

6 今後の方向性

幼児の障害に係る正しい知識と専門性の高い技術を身に付けた保育士や療法士（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、心理士、看護師が協力して、入園児個々の心身状況に応じた適切な保育やリハビリテーションを一所懸命に提供していきます。

また、障害の状況や家族のニーズに応じた総合的な療育の場等を提供し、専門職による治療、発達促進のための療育指導、家族に対する療育支援等を行っていきます。

障害児とその家族が、ライフステージに沿って、地域で適切な療育及び教育並びに障害福祉サービスが受けられるよう、引き続き、地域の関係者への技術援助や指導も行い、本県における心身障害児の早期発見、早期療育システムの中核機関としての役割も果たしていきます。

第4 こども療育センター

1 概要

こども療育センターは、児童福祉法に基づく医療型障害児入所施設です。医療法に規定する病院機能を有し、四肢や体幹に機能障害がある児童（18歳未満）の治療、訓練等を効果的に行うため、これらの機能を円滑かつ効率的に活用して、肢体不自由児が地域社会で自立した生活ができるよう、家族を含めて療育指導を行っています。

また、障害者総合支援法に基づく指定障害福祉サービス事業者として、障害児を一時的に保護する短期入所事業や市町との委託契約による日中一時支援事業を行っています。なお、短期入所事業では人工呼吸器装着児の利用も受け入れています。

2 スタッフ紹介（令和5年4月1日現在）

施設部長：山中 英雄

入所療育課長兼入所育成科長：沼尾 和典

入所看護科長：岩上 裕美

他 保育士 3名

看護師 19名

社会福祉士 1名

3 活動実績

(1) 入所事業

脳性麻痺、二分脊椎などにより手足又は体幹の機能に障害のある児童等に対し、障害程度や能力・適性に応じた保育・看護・機能訓練等を行い、自立した日常生活ができるよう療育訓練を行っています。（定員30人）

また、学齢児は隣接する「わかかさ特別支援学校」へ通学しています。

① 入所児の状況（障害の級別）（毎年度3月31日現在）

（単位：人）

	H30	R1	R2	R3	R4
人員	24	21	22	19	18
1級	11	11	12	11	8
2級	10	7	8	6	6
3級	0	1	2	2	1
その他	3	0	0	0	3

② 年齢別入所児の状況（令和5（2023）年3月31日現在）

（単位：人）

年齢 区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	合計
男	0	2	1	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	9
女	0	0	0	1	0	1	3	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	9
計	0	2	1	1	0	1	4	1	0	1	2	1	3	0	1	0	0	0	18

③ 入所児の措置・契約別状況（令和5（2023）年3月31日現在）

（単位：人）

区分	項目	男		女		合計		計
		措置	契約	措置	契約	措置	契約	
乳幼児		2	1	0	1	2	2	4
小学部（1～3）		0	1	3	2	3	3	6
小学部（4～6）		1	1	1	0	2	1	3
中学部		1	1	1	1	2	2	4
高等部		0	1	0	0	0	1	1
その他		0	0	0	0	0	0	0
合計		4	5	5	4	9	9	18

4 こども療育センター

④ 入所期間の状況（令和5（2023）年3月31日現在）

（単位：人）

期間	区分	～6か月未満	6か月～1年未満	1年～2年未満	2年～4年未満	4年～6年未満	6年～8年未満	8年～10年未満	10年～12年未満	12年以上	合計
		男	措置	2	0	0	0	0	0	0	2
	契約	2	0	0	0	0	0	1	0	2	5
女	措置	0	0	0	2	0	1	2	0	0	5
	契約	1	0	1	1	0	0	1	0	0	4
計		5	0	1	3	0	1	4	2	2	18

⑤ 入所児の要介助状況（令和5（2023）年3月31日現在）

（単位：人）

区分	食事	着脱 着衣	洗面 歯磨き	トイレ	入浴	歩行	言語	比率
自立	2	0	1	1	0	5	4	10.3%
一部介助	5	4	3	1	3	3	2	16.7%
全部介助	11	14	14	16	15	10	12	73.0%

⑥ 退所先の状況

(単位：人)

		H30	R1	R2	R3	R4
在宅	特別支援学校	0	1	0	1	0
	特別支援学級	0	1	0	0	0
	その他	3	0	1	3	1
	他の児童福祉施設	0	5	0	1	4
施設の変更等	障害者(18歳以上)の施設	0	0	0	0	1
	就職	0	0	0	0	0
	死亡	1	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0

⑦ 入所児への機能訓練等の実施状況

(単位：件)

	H30	R1	R2	R3	R4
理学療法	926	1,292	1,420	1,156	685
作業療法	487	1,024	528	635	355
言語療法	183	243	154	246	231
臨床心理	8	38	0	22	36
合 計	1,604	2,597	2,102	2,059	1,307

⑧ 補装具専門外来対応状況

(単位：件)

	H30	R1	R2	R3	R4
ブレイスクリニック	31	74	18	58	51
シーティングクリニック	49	57	22	81	75
合 計	80	131	40	139	126

(2) 短期入所事業

在宅で障害児を介護している保護者が、疾病その他の理由によって、一時的に介護ができなくなった場合に、当該障害児の短期間受け入れを行っています。

平成21(2009)年3月から短期入所利用定員4名のうち2名については人工呼吸器装着児等の重症心身障害児専用枠として受入れています。

利用期間 原則7日以内(宿泊を伴う)

定 員 4人

短期入所受入実績

(単位：人)

	H30	R1	R2	R3	R4
実人数	95	96	60	93	91
延人数	409	536	314	425	478
契約数	37	22	22	25	23

(3) 日中一時支援事業

障害児の日中における活動の場を確保し、家族の就労支援及び障害児を日常的に介護している家族の一時的な休息の確保を目的に市町との委託契約のもと、障害児の短時間受け入れを行っています。

利用期間 日戻り（1日以内）

定員 4人

日中一時受入実績

（単位：人・日）

	H30	R1	R2	R3	R4
実人数	67	62	31	57	54
延人数	177	128	102	113	156

4 人材育成への取り組み

利用児への適切な療育や保護者支援を行うため、内外の研修に積極的に参加し、職員の資質の向上に努めています。

5 実習生受け入れ状況活動実績

地域支援を目的として保育士養成校から実習生を積極的に受け入れています。

6 今後の方向性

県内唯一の医療型障害児入所施設（主として肢体不自由児）として、引き続き障害児の療育を行って行きます。

また、指定障害福祉サービス事業所（短期入所等）として、在宅障害児の家族のレスパイト等を支援していきます。

第5 障害者自立訓練センター（駒生園）

1 概要

障害者自立訓練センター（駒生園）は、障害者総合支援法に基づく障害者（主に身体障害（肢体不自由）及び高次脳機能障害）の地域生活移行を目指した指定障害者支援施設です。

脳血管疾患、脳性麻痺、外傷等により四肢や体幹等に障害のある方や高次脳機能障害者を対象に、自立訓練（機能訓練／生活訓練）と施設入所支援を通して、それぞれの障害に応じた訓練を行い、身体機能の維持・回復や生活能力の向上を図るなど、様々な形での社会参加を支援しています。

具体的には、利用者の身体能力等を的確に把握するため、サービス等利用計画に基づき入所時及び入所後の適切な時期に評価を行い、本人、家族と協議しながら、個別支援計画を作成（3か月毎に見直し）し、利用期間内に地域生活へ移行することを目指して各種訓練を行っています。

利用期間は原則として1年ですが、機能訓練は1年6か月、生活訓練は2年まで延長可能です。

2 スタッフ紹介（令和5年4月1日現在）

施設部長：山中 英雄

自立支援課長兼生活支援科長：橋本 裕二

自立訓練科長：半田 孝之

副主幹兼自立看護科長：山田 裕子

他 生活支援員 7名

理学療法士 1名

作業療法士 1名

業務嘱託員 8名

3 活動実績

自立訓練は多職種が連携し、支援計画に基づき利用者のニーズに応じた多彩な訓練を実施しています。

(1) 機能訓練（定員 30人）

- ・身体能力の維持、残存能力の育成助長
- ・日常生活動作の向上

食事やトイレなど生活上のあらゆる場面を訓練の場と捉え、実用に結びつく訓練を行っています。

- ・生きがいの再構築

創作活動や教養活動、レクリエーション等、体験活動を積極的に行っています。

- ・社会性の涵養

様々な人間関係をスムーズに築いていけるよう、個別指導やグループ活動を通して、コミュニケーションの向上を図っています。

自立訓練（機能訓練）利用状況

（単位：人）

期日	年度	H30	R1	R2	R3	R4
年間利用実人員		28	16	14	17	15
年間利用延べ人数		2,779	2,386	1,755	1,266	1,272

主な訓練の実施状況

（単位：人）

訓練内容	年度	H30	R1	R2	R3	R4
個別訓練		1,359	1,284	1,040	678	704
自主訓練		2,322	2,016	1,497	1,022	937
言語訓練（※）		133	128	127	102	117
心理相談（H30～）		52	51	68	75	53
認知リハ（グループ） *R2～				136	118	179
生活グループ *R4～						239
公共交通機関利用・外出訓練		25	16	0	3	1
買い物訓練		3	4	0	0	3
調理訓練		6	5	9	0	1
入浴訓練		6	8	2	6	5
グループ訓練		133	85	60	41	49
家庭訪問・居宅動作確認等		10	13	8	3	5
施設見学・施設実習		11	7	16	11	15
補装具作成支援		63	15	18	6	5
計		4,123	3,632	2,981	2,065	2,313

（※）生活訓練利用者含む

（2）生活訓練（定員 10 人）

・生活リズムの確立

施設内の生活を通して規則正しい生活習慣を身につけるとともに、日中の活動性を高めるための訓練を行っています。

・生活管理能力の向上

利用者が日課に沿って自ら行動できるよう、スケジュール表を活用し日課の管理等を行っています。

・社会生活技能、対人技能の向上

地域での生活に向け、買い物や公共交通機関を利用した外出訓練、調理訓練等を実施し、社会生活技能の向上を図っています。また、グループワークを行い、メンバー間の意見交換や役割分担・計画・実行・反省の過程を通して、対人技能の向上を図っています。

・代償手段の獲得

メモリーノートを活用し記憶の代償手段の獲得に努めています。

・作業耐性の向上

各種手工芸、事務作業、園芸作業及びスポーツ訓練を通して作業耐性の向上を図り、就労等に向けた準備を行っています。

自立訓練（生活訓練）利用状況

（単位：人）

期日	年度	H30	R1	R2	R3	R4
年間利用実人員		7	7	7	5	4
年間利用延べ人数		684	849	908	769	192

主な訓練の実施状況

（単位：人）

訓練内容	年度	H30	R1	R2	R3	R4
グループ訓練	スケジュール確認・振り返り	1,175	1,580	1,757	1,430	485
	スキルアップ	204	310	367	292	68
	認知リハ	191	254	373	257	36
	グループOT	209	297	287	285	63
	ガーデニング	249	285	334	175	47
	レクリエーション	0	0	8	0	2
	スポーツ	202	216	235	213	29
	作業	119	173	143	125	16
	個別訓練	就労訓練	64	40	91	86
個別（OT又はPT）		203	264	276	203	26
心理相談 *H30～		12	57	42	42	9
創作		258	128	279	282	75
パソコン		250	330	369	333	57
公共交通機関利用訓練・外出訓練		6	57	3	2	2
買い物・調理訓練		15	26	13	1	0
就労関連（施設見学・体験等）		3	16	17	125	121
その他（自主トレーニング等）		683	930	961	797	89
計		3,843	4,963	5,555	4,648	1,174

自立訓練（機能訓練）利用者の障害等級別状況推移

（単位：人）

等級	年度	H30	R1	R2	R3	R4
1 級		16	6	6	10	4
2 級		10	6	4	8	5
3 級		1	2	2	0	1
4 級		0	0	0	0	2
5 級		1	0	0	0	2
6 級		0	2	2	0	1
その他		0	0	0	0	0
計		28	16	14	18	15

（注）年間の全利用者数

自立訓練（機能訓練・生活訓練）利用者の病種別状況（R 4）

（単位：人）

病 種	脳血管疾患	頭部外傷	脊損・胸損 頸損	難 病	その他	計
人 数	15	1	2	0	1	19

（注）年間の全利用者数

(3) 施設入所（定員 30 人）

入所しながら自立訓練等を実施することが必要かつ効果的と認められる利用者や通所が困難な利用者を対象に、入浴・排せつ等の介助、生活等に関する相談・助言など日常生活上の支援を行っています。

施設入所利用者の状況

（単位：人・日）

項目	年度	H30	R1	R2	R3	R4
年間利用実人数		31	30	16	14	14
年間利用延べ日数		5,650	4,658	3,510	2,316	1,618

（注）年間の全利用者数

(4) 短期入所（定員 4 人）

在宅の障害者の介護を行う方が疾病やその他の理由により一時的に介護ができなくなった場合に、短期間の受入れを行い、入浴・排せつ、食事の介護など必要な支援を行っています。

短期入所利用者の状況

（単位：人・日）

項目	年度	H30	R1	R2	R3	R4
年間利用実人員		164	130	59	48	33
年間利用延べ日数		820	664	427	284	163

（注）年間の全利用者数

4 人材育成への取り組み

利用者本人や家族からの相談等に適切に対応するためには、専門分野だけではなく、幅広く関連した情報等が必要なため、内外の研修に積極的に参加し、職員の資質の向上に努めています。

5 実習生受入れ状況

地域支援のため、介護福祉士養成校の実習生等を積極的に受け入れしています。

令和4（2022）年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者と直接接しない業務を主とした介護等体験としましたが、福祉・介護職見学・体験の希望者及び教員免許取得予定者、介護実習生の受入れはありませんでした。

6 今後の方向性

身体障害者や高次機能障害者への自立訓練（機能訓練／生活訓練）を行う県内唯一の施設として、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、利用者がスムーズに地域生活に移行できるよう、関係機関等と連携を図り効果的な自立訓練の実施に努めていきます。

また、利用しやすく、利用者や家族をはじめ県民のニーズに沿ったサービスが提供できるよう施設づくりに努めていきます。

第6 医療安全管理

1 概要

医療安全管理対策及び医療安全事故発生時の対応体制の確立を推進し、もって適切かつ安全な医療の提供に資することを目的としています。

医療安全管理委員は、安全管理体制の確保及び推進に関する全般的事項について審議することを目的に設置しています。さらに、体制確保するための委員会・ワーキンググループ（WG）を所管しています。

2 各委員会等活動内容

<リスクマネジメント委員会>

・活動内容

1. 事例のレポート作成、把握、分析
2. 事故防止対策マニュアルの見直し
3. 事故報告書、インシデントレポート等の報告
4. 事故防止の啓蒙、職員の研修・教育
5. その他、事故防止

・活動実績

1. 委員会実施（月1回／第2月曜日）
2. 物品破損等への対応
3. インスリンペン型注入器の使用済みペンニードルの取扱いについて

<転倒・転落検証WG>

・活動内容

1. 検証WG実施（年10回）
2. 転倒・転落事例検討
3. 検証

・活動実績

1. 転倒・転落時の患者・家族への説明についての検討
2. 転倒・転落後の報告フローチャートの作成
3. 「安全用具の種類と使用方法」一覧表の見直し
4. とちりハ病院研修会講師
5. 新規採用者研修講師

<感染対策委員会>

・活動内容

1. 感染症の院内感染防止対策の作成及び推進
2. 感染症の院内感染発生時の対応マニュアル等の作成
3. 院内感染などの情報収集及び職員研修
4. その他、院内感染対策

・活動実績

1. 委員会（月1回／第3水曜日）
ICT（感染防止対策チーム）（感染対策委員会終了後、定期月2回、他臨時開催随時）
会議の開催
2. 新規採用者研修
3. 感染防止対策研修会（2回）「当センターにおける新型コロナウイルス感染確認後対応アンケートについて」他、「ICTアンケート結果公表」他
4. センター内ラウンド（毎週火曜日）、集中ラウンド（3回）、確認ラウンド（3回）
5. 栃木県立がんセンター共同カンファレンス（4回）
6. 新型コロナウイルス感染者発生時の対策チェックリスト作成
7. 感染症対応（インフルエンザ、流行性耳下腺炎、RSウイルス、ノロウイルスなど）

<医療安全管理室>

・活動内容

1. アクシデント・インシデントレポート報告による情報の収集、分析及び提供
2. 医療安全対策の実施状況の評価及び業務改善計画書の作成
3. 医療安全管理に関する連絡調整及び医療安全管理委員会との連携
4. 医療安全対策の啓蒙、職員の研修・教育
5. その他、医療安全

・活動実績

1. 打ち合わせ実施（月1回／第2月曜日）
2. 新規採用者研修
3. 安全防護具の使用基準の検討・作成
4. 院内研修会実施後の習熟度把握
5. 医療安全対策研修会（2回）「医療ガス講習会」「医療現場におけるコミュニケーション」
6. 医療安全推進週間の取り組み「医療安全に関する標語」の作成・掲示
7. 栃木県立がんセンター医療安全対策地域連携加算ラウンド

<褥瘡対策委員会>

・活動内容及び実績

1. 褥瘡対策委員会の開催
2. 院内褥瘡発生率の集計・現状把握・分析
3. 褥瘡に関する診療計画書の作成
4. 褥瘡回診（多職種でラウンド・回診前にカンファレンス実施）
5. 院内研修会の企画・開催（令和4年度研修会は12月16日開催。テーマ：「スキントアの予防と管理」講師：NHO 栃木医療センター褥瘡対策室皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤富美氏）
6. 褥瘡ケアマニュアルの作成・改訂（1回／年）
7. 体圧分散寝具・高機能エアマットレスの管理・運用

<感染性廃棄物管理委員会>

・活動内容及び実績

1. 委員会実施（年1回） 令和5年3月6日開催
2. センターの生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、安全な医療の提供を保全

<医療ガス安全管理委員会>

・活動内容及び実績

1. 委員会実施（年1回） 令和5年3月6日開催
2. 医療ガス設備の保守点検
3. 医療ガス設備の安全な使用のための知識の普及・啓発

<医療機器安全管理委員会>

・活動内容及び実績

1. 委員会実施（年1回） 令和5年3月6日開催
2. 保守点検に関する計画の策定及び保守点検

3 過去5年間（平成30(2018)～令和4(2022)）における医療事故等について

過去5年間（平成30(2018)～令和4(2022)）に当センターで発生した医療事故等は次のとおりです。

1 レベル別件数

レベル (※1)	内 容	件数（年度別）				
		H30	R1	R2	R3	R4
0	エラー(※2)や医薬品・医療機器の不具合が見られたが、患者には実施されなかった。	98	133	100	100	76
1	患者への実害はなかった（何らかの影響を与えた可能性は否定できない。）	320	357	294	242	240
2	処置や治療は行わなかった（患者観察の強化、バイタルサイン(※3)の軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた。）	124	148	114	86	108
3a	簡単な処置や治療を要した（消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など）。	48	104	63	44	64
3b	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など）。	9	7	5	5	7
4a	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない。	0	0	0	0	0
4b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う。	0	0	0	0	0
5	死亡（原疾患の自然経過によるものを除く。）	0	0	0	0	0
計		599	749	576	477	495

※1 レベル0～3a…ヒヤリ・ハット事例（患者に実害がなかったもの）に該当

レベル3b～5…医療事故（患者等への実害があったもの）に該当

※2 ある行為が①行為者自身が意図したものでない場合、②規則に照らして望ましくない場合、③第三者からみて望ましくない場合、④客観的期待水準を満足しない場合などに、その行為を「エラー」という。

※3 血圧、脈拍、呼吸など

2 事象別件数（(公財)日本医療機能評価機構による分類）

事 象	内 容	件数（年度別）				
		H30	R1	R2	R3	R4
薬剤	注射、点滴、内服薬など	158	194	158	138	141
輸血	血液検査、輸血など	0	0	0	0	0
治療処置	手術、麻酔、処置など	52	41	23	26	33
医療機器等	医療機器など	17	11	8	9	5
ドレーン、チューブ類	チューブ、カテーテルなど	23	58	35	21	44
検査	採血、撮影など	15	26	25	12	11
療養上の世話・場面	転倒、転落、給食、栄養など	301	380	288	229	231
その他	苦情、暴言暴力、離院離棟など	33	39	39	42	30
	計	599	749	576	477	495

第7 研究論文、研究発表等

1 論文及び著書

小児科

○論文

1. Kojima K, Wada T, Shimbo H, Ikeda T, Jimbo F E, Saitsu H, Matsumoto N, Yamagata T. The ATRX splicing variant c.21-1 G>A is asymptomatic. Hum Genome Var.2022;9:33.

○著書、総説

- ・ 栞島真理、山形崇倫：遺伝子治療開発研究（p.692-695） 第4章 治療実施体制と医療経済 第2節 AAV 治療実施体制構築 1. SMA

2 学会発表

神経内科

- ・ 秋本千鶴、近藤総一、中澤征人、鈴木尚、船越政範, 当院におけるCerebral microbleedsの臨床像, 第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022.11.4-6, 岡山.
- ・ 近藤総一、秋本千鶴、鈴木尚、中澤征人、船越政範. 当院の自動車運転再開評価におけるドライビングシミュレーターと神経心理学的検査の関連, 第77回日本リハビリテーション医学会関東地方会学術集会, 2022.9.4, つくば.

小児科

- ・ Karin Kojima, et al. Long-term efficacy of gene therapy for AADC deficiency using AAV2-AADC vector. 第64回日本小児神経学会学術集会 2022.6.3. 高崎.
- ・ 小島華林. 障がいをもつ子供の栄養管理. 下野栄養研究会 2022.4.18 WEB
- ・ 栞島真理、山形崇倫 「学習困難を主訴に受診した児の評価と特性」 第6回日本リハビリテーション学会秋季学術大会 2022.11.4-6. 岡山.

リハビリテーション部

- ・ 伊藤弘通、池田拓人、岡本帆奈、加藤由梨、中村紗希、武井智子、中山瑞恵、稲村恵理子、長崎隆司、星野雄一, Honda歩行アシストステップモードによる検討, 第47回日本運動療法学会学術集会, 2022.7.2, オンライン開催

看護部

- ・ 横田由紀, 医療型障害児入所施設における口腔機能管理の取り組み～学習会の効果を通して～, 第19回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 第2回国際口腔ケア学会総会・学術大会合同会議, 2022.4.23-24, Web開催
- ・ 伊藤智子、有馬克美、片山泰司、三堂地みゆき、坂本麻子、岩澤麻由美, 車椅子の安全性を強化するための管理・点検手順を見直す取り組み, リハビリテーション・ケア合同研究大会, 2022.9.30-10.1, 苫小牧

- ・平出昌子、相場麻希子、増淵寛奈、穂山千春、坂本麻子、小野美佐,排泄自立に向けた進行管理表の導入,リハビリテーション・ケア合同研究大会,2022.9.30-10.1,苫小牧
- ・亀山葉子、小林晴美、横須賀由奈、小林晃美,服薬管理能力評価スケールと服薬指導MAPの活用～より良い服薬指導に向けての取り組み～,第60回全国自治体病院学会,2022.10.10-11,沖縄
- ・高藤哲也、坂本拓也、岡本淳、伊藤智子,回復期リハビリテーション病棟におけるICFを用いた事例検討～個別性のある便秘ケアを試みて～,回復期リハビリテーション病棟協会第41回研究大会,2023.2.24-25,岡山

施設部

- ・菊地友香、桐内花、岡村順子、山田裕子,コロナ禍における日中一時・短期入所の受け入れの現状と課題,第67回全国肢体不自由児療育研究大会,2022.10.20～11.18, Web開催

3 講演

整形外科

No	講演者	演題	主催	開催地	開催日
1	星野 雄一	フレイルロコモ医学会宣言について	J-NET Wave(自治医大)	宇都宮市	2022.6.29
2	星野 雄一	ロコモ総論	栃整会	宇都宮市	2022.12.11
3	星野 雄一	ロコモ最新情報	県退職者会	宇都宮市	2022.10.17
4	星野 雄一	ロコモの最新情報と医学会宣言	和歌山医大リハ科	和歌山市	2022.12.9

小児科

No	講演者	演題	主催	開催地	開催日
1	栞島 真理	医療的ケア児の緊急対応	のぞわ特別支援学校	のぞわ特別支援学校	2022.7

4 センター内職員研修

(1) 全体研修

開催日	内容	講師	参加人数
R4.4.1 ～6	新規採用職員研修	各部担当者	4/1 13 4/4 13 4/5 9 4/6 10
R4.6.29	第1回感染対策研修会(当センターにおける新型コロナウイルス感染確認後対応アンケートについて、職員アンケート結果に基づく標準予防策について、感染対策に関するマニュアルの説明について)	管理部 坂井 瑛 診療部 秋本 千鶴 リハビリテーション部 土屋 綾子 ほか	256(研修録画の自主視聴含む)
R4.7.27	第1回医療安全研修会(医療ガス講習会)	施設部 増山 雄二	268(研修録画の自主視聴含む)
R4.9.29	全体研修	所長 星野 雄一	20
R4.10.21	ハラスメント対策研修	保健衛生事業団 松本 和子氏	21

開催日	内 容	講 師	参加人数
R4.10.26	第2回感染対策研修会（ICT アンケート結果公表、ICT 巡視結果報告、ICT アンケート及び巡視結果を踏まえた感染対策、電子カルテトップ画面：マニュアル、フローチャート等説明）	診療部 秋本 千鶴 診療部 小島 華林 看護部 岩上 裕美 ほか	261(研修録画の自主視聴含む)
R4.10.28	アンガーマネージメント研修	保健衛生事業団 産業カウンセラー 江戸 功氏	22
R4.11.9	第2回医療安全研修会(医療現場におけるコミュニケーション)	地域医療連携室 生田目恵里 齋藤 祥弘	264(研修録画の自主視聴含む)
R4.12.16	褥瘡対策研修（スキンテアの予防と管理）	NHO 栃木医療センター 遠藤 富美氏	25
R5.1.6	診療放射線安全管理研修会	診療部 船越 政範 放射線科 内田 昇	102(研修録画の自主視聴)

(2) 部内研修

ア 施設部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R4.5.20	臨床心理科科内学習会	心理士	3
R4.6.15	臨床心理科科内学習会	心理士	3
R4.7.20	臨床心理科科内学習会	心理士	3
R4.9.21	臨床心理科科内学習会	心理士	4
R4.10.12	臨床心理科科内学習会	心理士	4
R4.11.17	臨床心理科科内学習会	心理士	3
R4.12.8	臨床心理科科内学習会	心理士	4
R5.1.19	臨床心理科科内学習会	心理士	3
R5.2.20	臨床心理科科内学習会	心理士	4

イ 診療部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R4.5.24	医薬品安全管理研修会	薬剤科 浦島 昌久	13
R4.9.2	医薬品安全管理研修会	武田薬品工業(株) 中野 陽介氏	7
R4.9.13	医薬品安全管理研修会	薬剤科 浦島 昌久	4
R4.9.15	医薬品安全管理研修会	バイエル(株) 稲葉 就一氏	4
R4.10.26	医薬品安全管理研修会	薬剤科 浦島 昌久	30
R5.2.3、6、13	NST 勉強会	管理栄養士	69
R5.2～3	NST 勉強会（延べ11回開催）	管理栄養士	60

ウ リハビリテーション部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R4.4.6	新任職員研修（ICT ①、業務マニュアル、入院生活の流れ等）	和久井千夏子、半田孝之、糸井将貴、金田俊幸、中村紗希、杉山博紀	2
R4.4.7	新任職員研修（補装具、姿勢介助と移乗動作等）※看護部との合同開催	高野輝明、山岸拓真、狩野泰宏、杉山博紀	7
R4.4.8	新任職員研修（食事の介助、更衣の介助、入院～退院までの支援、合同評価・カンファレンスとは、リハで必要な検査・評価の知識）※看護部との合同開催	山川知恵理、森まどか、小野崎桃佳、佐原敬明、鷹箸真菜見、斎藤ゆき乃、引地真美子、舟守千瑞子	6
R4.4.11	新任職員研修（療法記録と書類、電カルシステム、TAK（リハカルテ）、ICT ②、接遇、備品確認・防災対策）	星野浩弥、田村優弥、半田孝之、長谷川菜生、林花澄、長崎隆司、土屋綾子、亀田真弓	2
R4.4.12	新任職員研修（リスク管理、リスク実践、病棟環境など）	大石弥生	18
R4.7.1	前頭葉について1	駒形孝大	15
R4.7.6	新人勉強会（移乗）	小野上みなみ	14
R4.7.28	認知行動アセスメント（CBA）	星野浩弥	10
R4.8.4	前頭葉について2	駒形孝大	10
R4.8.19	自動車運転再開に必要な基礎知識	平岡幸見、土屋綾子	14
R4.8.16	新人勉強会（IVES）	池田拓人	15
R4.8.25	CBA	小野崎桃佳	11
R4.8.25	頭頂葉について1	駒形孝大	10
R4.9.15	頭頂葉について2	内山佳信	13
R4.9.15	FMA について	狩野泰宏	15
R4.9.22	臨床実習指導者講習会を受けるまでの準備	糸井将貴	22
R4.10.30	予後予測について	笠原祐子、金田智子	10
R4.10.19	移乗	岡本帆奈、小野上みなみ	7
R4.10.20	側頭葉について	駒形孝大	10
R4.11.6	構音・嚥下障害患者の上部体幹への介入	内山佳信	6
R4.11.4	発声への介入	内山佳信	4
R4.11.10	高次脳機能障害について	狩野泰宏、斎藤美帆子	10
R4.11.17	自動車運転評価	神経内科 近藤総一 医師	18
R4.11.25	前頭葉・頭頂葉の機能	内山佳信	8

工 看護部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R4.4.6	新任職員研修（看護部概要、教育プログラム、看護部紹介、整形外科・小児科・リハ看護、救命救急、接遇）	看護部長 浅川久枝、各部署師長、神田優香利、神田理絵、岡本淳、藤田愛子	6
R4.4.7	新任職員研修（個人情報・倫理、感染対策、酸素ボンベの取り扱い、安全確保、患者確認、補装具紹介、姿勢介助と移乗動作）	ICT チーム 山田裕子、岩上裕美、副看護部長 岩澤麻由美、青木拓磨、リハ部理学療法士、業者	7
R4.4.8	新任職員研修（食事の介助、更衣の介助、避難経路、入院から退院までの支援、合同評価、カンファレンス、リハで必要な検査・評価、接遇マナーチェック）	リハ部作業療法士、言語聴覚士、副看護師長 横田由紀 中央監視 小池浩継	6
R4.4.11	新任職員研修（電子カルテの基本操作）	小林晃美、電カル WG	4
R4.4 月	新任職員研修移乗・移送の介助（各部署開催）	リハ部理学療法士	6
R4.5.12	プリセプター研修	看護師 有馬克美	8
R4.5.17	副師長発表会	副看護師長	28
R4.5.24	薬剤管理「正しい薬剤管理方法」	薬剤師 浦島昌久	11
R4.5.26	臨床実習指導者（実習の意義、役割）	看護師 大島さとみ	5
R4.6.10	第1回看護研究研修・Zoom開催（研究計画書の書き方）	国際医療福祉大学 落合佳子先生	18
R4.6.21	退院支援	回リハ病棟認定看護師 小林晃美	8
R4.6.30	在宅支援	MSW 生田目恵里	10
R4. 6.1 ～ 30	FIM（動画視聴）	脳卒中リハ看護認定看護師 岡本淳	5
R4.8 ～ 9月	日常生活機能評価（5階、6階、レベルI）	eラーニング	26
R4.8 ～ 9月	看護補助者体制充実加算に伴う研修（動画視聴）	4階病棟看護師、看護助手	23
R4.7 月	医療機器の取扱（各部署開催） 除細動・心電図計、ベッドサイドモニター	各部署看護師	26
R4.10.7	認知症看護「困難事例の対応」・Zoom開催	上都賀総合病院、認知症看護認定看護師 坪山範子	24
R4.11.22	リーダー研修	副看護師長 吉末千夏	12
R4.9 ～ 12月	患者誤認防止シミュレーション	副看護師長	15
R4.12.5	多職種で取り組む口腔ケア	摂食・嚥下障害看護認定看護師 横田由紀	21
R4.12.7	第2回看護研究研修・Zoom開催（原稿のまとめ方）	国際医療福祉大学 落合佳子先生	17
R4.12.15	回リハ病棟研修会（FIMと診療報酬）	医事課 菊池亮平	24
R5.1.17	伝達講習会	看護師 高島圭介、荒井美希、吉岡美枝	27
R5.2.7	事例発表	新任看護師	40

開催日	内 容	講 師	参加人数
R5.2.14	看護研究	講評：国際医療福祉大学 落合佳子先生	42

5 センター内研究発表

(1) リハビリテーション部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R5.1.20	カンファレンス 基本と実際	稲村恵理子	22
R5.1.20	安静度を車いす介助から歩行レベルへ拡大できた症例	廣瀬 菜々	22
R5.1.20	IVES 基礎的知識と臨床での活用方法	鷹箸真菜見	22
R5.1.20	会話が自律神経に与える影響～筋の柔軟性に着目した身体変化～	渡邊 澄	22
R5.3.16	中等度の左片麻痺を呈した方への単身生活に向けた退院支援に難渋した症例	高橋 佑佳	12

(2) 看護部

開催日	内 容	講 師	参加人数
R5.2.7	歯磨きが苦手な児に対する関わり方	須長 由果	39
	精神発達遅滞を抱えた医療ケア児との関わり方～プロセスレコードを活用した振り返り～	塩田 絵梨子	39
	内服自己管理の定着を目指した関わりからの学び	塚田 仁香	39
	患者・家族の意思決定を尊重した退院支援～退院先の決定と調整について～	川瀬 政昭	39
R5.2.7	高齢者の食事摂取量低下の要因と援助～他職種で関わる必要性と看護師の役割～	松田 玲奈	39
	脳卒中による片麻痺の受け入れ方について	大出 俊太郎	39
	自宅退院を目指す患者家族の要望に添った援助～回復期リハビリテーション病棟における他職種連携での学び～	小出 匡也	39
	独居家族の退院支援～在宅復帰に向けた目標設定、意欲向上を図るための関わり～	小杉 瑠香	39
R5.2.14	日中一時・短期入所利用児への遊び時間を業務に取り入れた試み～個々に合わせた遊びの関わり～	こども療育センター ○近藤 結衣、岡村順子、児玉英子、安徳静鶴、山田裕子	42
	夜勤の多重課題に対する実態調査	4階病棟 ○杉野 真紀、大島さとみ、池田セイチ、久里翔太、小野美佐	42
	回復期リハビリテーション病棟における栄養管理～栄養状態改善に向けた実践的学習の取り組み～	5階病棟 ○山田 光枝、高松宏実、伊藤智子	42
	Y字ベルト使用に関する調査分析～車椅子乗車中に転倒した患者背景と経過から～	6階病棟 ○青木拓磨、川俣茜、岩崎里枝、茂呂拓海、小林晃美	42

6 委員等就任状況

星野雄一

No	就任状況	就任年月日
1	栃木県教育支援委員会委員	2013.4.1～
2	栃木県社会福祉審議会臨時委員	2013.4.1～
3	栃木県障害者福祉推進審議会委員	2013.4.1～
4	栃木県障害者差別解消推進委員会副委員長	2016.4.1～
5	栃木県国保介護給付費審査委員会委員長	2013.4.1～
6	栃木県社会福祉協議会活動推進計画推進委員	2013.4.1～
7	栃木県社会福祉審議会身体障害者福祉専門分科会審査部会員	2013.4.1～
8	栃木県社会福祉協議会生活資金運営委員会委員	2013.4.1～
9	栃木県保健福祉部特別児童手当障害認定医	2013.4.1～
10	栃木県保健福祉部児童扶養手当障害認定医	2013.4.1～
11	栃木県保健福祉部非常勤嘱託医	2021.4.1～
12	栃木県教育委員会嘱託医	2018.4.1～
13	日本運動器科学会監事	2022.7.8～
14	とちぎ健康福祉協会評議員	2021.6.1～
15	関東整形災害外科学会監事	2021.4.1～
16	栃木県障害児通園施設連合会顧問	2021.4.1～
17	フレイルロコモ克服のための医学会宣言 WG 委員	2022.4.1～

船越政範

No	就任状況	就任年月日
1	災害リハ関東ブロックリハコーディネーター推進委員会委員	2016.1.30～
2	栃木県高次脳機能障害支援連携協議会委員	2017.4.1～
3	日本リハビリテーション医学会広報委員会委員	2017.4.1～
4	日本リハビリテーション医学会会則検討委員会委員	2022.12.1～
5	大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会・広報委員会委員長	2022.6.1～

7 その他

ロコモ啓発活動

(1) ロコモ度テスト器具貸し出し 9件

No	使用日	貸し出し先
1	R4.5.24	矢板中学校沢分校
2	R4.8.28	足利市役所 健康増進課
3	R4.10.14	アルファーム薬局
4	R4.10.17	栃木県退職者会

No	使用日	貸し出し先
5	R4.12.11	栃木県整形外科医会（セラピスト研修会）
6	R5.1.11	栃木県庁 健康増進課（ロコモアドバイザーとちぎ養成研修会）
7	R5.2.1	田原地域包括支援センター
8	R5.3.2	今市病院 整形外科
9	R5.3.14	田原地域包括支援センター

地方独立行政法人
栃木県立リハビリテーションセンター

〒320-8503 栃木県宇都宮市駒生町 3337-1
TEL 028-623-6101
<https://tochigi-riha.jp/>

お問い合わせ

	TEL	FAX
■ リハビリテーションセンターの全体に関する事 …………… 総務課	028-623-6101	028-623-6151
■ 初診予約に関する事 ……………	028-623-7254	028-623-6125
■ 窓口業務に関する事 …………… 医事課	028-623-6124	028-623-6125
■ 医療センターの利用に関する事 …………… 地域医療連携室	028-623-7051	028-623-7052
■ こども発達支援センターに関する事 …………… 通園療育課	028-623-6128	028-623-6129
■ こども療育センターに関する事 …………… 入所療育課	028-623-6138	028-623-6139
■ 障害者自立訓練センター（駒生園）に関する事 …………… 自立支援課	028-623-6310	028-623-6325